

報第33号

令和4（2022）年度
柏崎市教育委員会
点検・評価報告書

令和5年（2023年）9月12日提出
柏崎市教育委員会
教育長 近藤 喜祐

目 次

はじめに	P 1
総評(教育委員会事務評価委員会)	P 2 ~ 5
第1 教育委員会の会議及び委員の主な活動	P 6 ・ 7
第2 教育委員会の事務の管理及び執行状況	P 8
1 子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ	P 8
(1) 知徳体のバランスの取れた教育を進める	P 9 ~ 12
ア 基礎学力をしっかりと身に付ける教育の推進	
イ 他者を思いやり、豊かな人間性をはぐくむ教育の推進	
ウ 体力を高め、健やかな体をはぐくむ教育の推進	
(2) 地域の人・もの・資源を活かして若者を育てる	P 13 ~ 15
ア ふるさと柏崎をこよなく愛し、発展させる人材の育成	
イ 教育における学校・家庭・地域の連携	
ウ 子どもの健全育成支援の推進	
(3) 教育環境を充実させる	P 16 ~ 21
ア 良好な教育環境の整備	
イ 教育現場の I C T 環境の充実	
2 学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ	P 22
(1) 学びの機会を充実させる	P 23 ~ 26
ア 多様な学習・交流機会の提供	
イ 社会教育環境の充実	
(2) 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する	P 27
ア 地域づくりへの学習成果の活用	
イ 様々な主体との連携による生涯学習の充実	
3 スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ	P 28
(1) スポーツによる地域づくりや生きがいを進める	P 29 ・ 30
ア ライフステージに応じたスポーツの推進	
イ スポーツによる交流人口の拡大	
(2) 全国や世界に通用する競技者を育てる	P 31 ~ 33
ア 競技団体との連携の強化と指導者の養成	
イ 競技力の向上に向けた取組の推進	
ウ 施設の整備と改修	
4 歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる	P 34
(1) 歴史・文化を保全・活用し、継承する	P 35
ア 伝統芸能の継承	
イ 歴史・文化資産の保存と活用	
ウ 産業文化や生活文化の保存と活用	
エ 景観まちづくりの推進	
(2) 市民の主体的な文化活動を支援する	P 36 ・ 37
ア 市民の文化活動への支援	
イ 多様な文化交流の推進	
5 その他教育関係事務事業	P 38
令和 4 (2022) 年度 掲載がない事業	P 38
用語解説	P 38
参考	P 39

はじめに

1 点検及び評価の背景

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっています。また、その点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

柏崎市教育委員会は、法の趣旨にのっとり、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施しました。

2 点検及び評価の対象

評価対象の事務事業は、第五次総合計画（後期基本計画）の施策体系を基本に、柏崎市教育大綱を踏まえ、令和4（2022）年度に執行した事務事業のうち81事業を対象として点検及び評価を行いました。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で事業の実施や施設運営を行いました。また、やむを得ず事業が中止になり、評価をすることができないものについては評価不能としました。

<内部評価ランク>

- [S] 期待を超える成果があった。
- [A] 期待どおりの成果があった。
- [B] 期待に比べ成果が少なかった。
- [-] 新型コロナウイルス感染症によりやむを得ず事業が中止になり、評価することができなかった。

3 学識経験者の知見の活用

点検及び評価に当たっては、その客観性を確保するため、教育委員会が行った内部評価に対して、教育に関し学識経験を有する者で組織する教育委員会事務評価委員会に諮問し、御意見をいただきました。

総 評

令和4（2022）年度に柏崎市教育委員会が執行した事務の内部評価及び状況について点検及び評価を行った。評価のポイントは、柏崎市第五次総合計画後期基本計画と柏崎市教育大綱を踏まえて、適切に事業が行われているかを主眼とした。評価に当たっては、教育委員会担当課から内部評価の聞き取りを計2回に分けて行った。

事務評価委員会として、以下のとおり総評する。

総合計画の基本方針に基づき、知徳体のバランスの取れた教育や教育環境の充実により、子どもたちの健全育成を図るとともに、子どもから大人まで全ての市民が学びやスポーツに親しむことにより、たくましいまちをつくるとしている。

事務評価委員会では、教育委員会の81の事務事業について点検及び評価を行ったところ、実施された事業は、おおむね期待した成果があるものと認めた。

事業別の評価結果は、次のとおりであった。

Sランク	・・・	1	事業
Aランク	・・・	79	事業
Bランク	・・・	0	事業
－（評価不能）		1	事業

本市の教育の充実を図るため、令和4（2022）年度は、指導補助事業や特別支援学級介助事業で人員を増やして事業を積極的に推進するとともに、スポーツ分野ではスポーツ合宿を積極的に誘致するなど、教育各分野において、事務事業が予算に基づいて確実に執行された。また、コロナ禍ではあったが、感染症対策を適切に講じながら、各種イベントや講座、企画展等を実施してきた。

今後の教育委員会の事業実施に当たっては、コロナ禍以前の社会活動に戻りつつある中で、各種事業の実施方法を改めて検討し、生活様式や人々の意識の変化などの課題を把握して教育環境の充実に努める必要があり、その上で事業を適正かつ効果的に実施することが求められる。

項目別の評価は、次のとおりである。

<事務評価委員会における項目別の主な評価等>

第1 教育委員会の会議及び委員の主な活動 (P6・7)

教育の現状や課題の把握に努め、適切に活動していると認められる。

- ・学校訪問を通じて学校の現状や教育の取組等を確認し、教育行政に役立っている。
- ・学区等審議会からの答申を踏まえた学区再編方針について、市長と意見交換を行い、教育活動を行うための諸条件の整備について課題の解決に努めている。

第2 教育委員会の事務の管理及び執行状況

1 子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ

(1) 知徳体のバランスの取れた教育を進める (P9-12)

期待した成果があるものと認められる。

- ・指導補助員を前年より多く配置し、きめ細やかな指導・支援が行われている。また、部活動指導員の配置により、教員の負担軽減が図られており、効果的に事業を実施している。
- ・スマートフォンやタブレットが日常生活の一部となってきた中、急速に発展するAIをどのように活用していくか、利便性だけでなく危険性も理解させ、児童生徒が適切に対応できるようにすることが今後の課題である。
- ・学校読書支援員による書架整理や読書環境整備は、学校の満足度も高い。今後も図書館と学校が連携を図ることで、児童生徒が読書習慣を身に付けていくことを期待する。

(2) 地域の人・もの・資源を活かして若者を育てる (P13-16)

期待した成果があるものと認められる。

- ・かしわざきこども大学事業の財源である基金が減少を続けていることについて、財源確保に向けて具体的に検討する必要がある。
- ・地域で育む子ども育成事業について、少子化により保護者のPTAに対する意識も変わりつつあるが、地域子ども会とPTAの活動をどう両立させていくか、今後の継続に向け、その趣旨と必要性をよく周知し、理解を得る必要がある。
- ・県のスクールカウンセラーの派遣回数が少ない中学校に心の教室相談員を配置しており、生徒の不安や悩みに丁寧に向き合っている。相談内容の多様化により困難な業務だが、きめ細やかな相談支援を継続していただきたい。

(3) 教育環境を充実させる (P16-21)

期待した成果があるものと認められる。

- ・学力向上推進プロジェクトについて、学力向上推進員の活動による効果的な授業支援と研修により、教員の国語、算数・数学の授業力を高めることで、児童生徒の学力向上が達成されることを期待する。
- ・校舎戸締まり等の委託について、教員の働き方改革及び長時間勤務の改善が図られており、効果が認められる。仕事の持ち帰りや早朝からの勤務により、勤務時間の上限を超える勤務実態とならないよう配慮していただきたい。

2 学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ

(1) 学びの機会を充実させる (P 23-27)

期待した成果があるものと認められる。

- ・図書館での読み聞かせやブックスタート事業は、本に触れるだけでなく、子育てでストレスを抱えた若い親たちがお互いにコミュニケーションを取ったり、子育てのアドバイスを受けたりする場としても機能している。図書館の施設を有効に使いながら、様々な機能を持った文化的なよりどころとなることを期待する。
- ・公民館講座運営事業について、より多くの市民に学習機会を提供するため、比較的若い世代が関心を持ちやすい新たな講座の開講を検討していく必要がある。
- ・博物館では様々な企画や未就学児に対するイベントなど、工夫を凝らした運営をしていることが分かる。博物館を身近なものとするためにも、事前PRに限らず、行ったイベントを広く周知させることで、それらの活動を積極的にPRしていくことが必要である。

(2) 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する (P 27)

期待した成果があるものと認められる。

- ・市民大学運営事業は、市民が幅広い分野の知識を習得し、学ぶ楽しみを見いだすことを目的に実施できている。

3 スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ

(1) スポーツによる地域づくりや生きがいを進める (P 29・30)

期待した成果があるものと認められる。

- ・ボルダリングのような新しいスポーツの競技人口が増えてきていることもあり、若い世代のスポーツの種目に対する意識がこれまでと変わってきているため、若い世代や女性のスポーツ推進委員を増やしていくことが大切である。
- ・部活動の地域移行に向けて、スポーツ協会の加盟団体と連携し、人材の確保や指導者の資質を向上させていく必要がある。

(2) 全国や世界に通用する競技者を育てる (P 31-33)

期待した成果があるものと認められる。

- ・県内では、スケートボードやボルダリングなどの新たな競技スポーツのための施設の整備なども進んできている自治体もある。柏崎市でも競技人口を把握した上で、必要に応じて施設の整備や指導者の確保を行う必要がある。
- ・水球のまち柏崎として、水球を通じた交流を児童生徒にも拡大させ、より多くの人が水球のまちとして柏崎を誇りに思えるよう機運の醸成を図ることが大切である。

4 歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる

(1) 歴史・文化を保全・活用し、継承する (P35・36)

期待した成果があるものと認められる。

- ・綾子舞後継者育成事業では、綾子舞保存振興会や学校などと連携して、熱心に後継者育成に取り組んでいる。伝承学習を継続し、今後も後継者育成に努めていただきたい。
- ・WEBミュージアムは、柏崎市の歴史文化を学ぶ良い資料である。学校のインターネット環境も整備されているため、授業での積極的な活用を検討していただきたい。

(2) 市民の主体的な文化活動を支援する (P36・37)

期待した成果があるものと認められる。

- ・民間文化団体が減少しているが、今までとは異なる新しい形での文化活動も増えており、そういった活動のために野外おんがく堂などのイベントで発表の場を提供したり、賑わいの創出につなげたりと工夫を凝らして文化芸術活動を支援している。

5 その他教育関係事務事業 (P38)

期待した成果があるものと認められる。

- ・同和問題を始め、インターネットによる人権侵害など人権問題についての啓発活動を推進していくことが大切である。

令和5年(2023年)7月21日

柏崎市教育委員会事務評価委員会

委員長 吉田 存 祐

副委員長 笠原 寿 雄

委 員 小 嶋 美江子

委 員 野 澤 真由美

第1 教育委員会の会議及び委員の主な活動

1 教育委員会会議の開催状況

開催月	審議事項等			報告事項	
	条例、規則等の制定・改廃	人事案件	その他の案件		
4月臨時会	—	1件 学区等審議会委員の委嘱	1件 市立小・中学校の統合及び学区の見直し	—	
4月定例会	6件 市学校給食費の徴収に関する条例施行規則の制定ほか	4件 学校給食共同調理場運営委員会委員の解嘱及び委嘱	1件 教育財産の用途廃止	7件	令和4年度（2022年度）柏崎市奨学生の選考結果
5月定例会	1件 市学校給食共同調理場設置条例施行規則の一部を改正する規則	3件 市教育委員会事務評価委員会委員の委嘱ほか	2件 令和4（2022）年度一般会計補正予算（第4号）ほか	9件	教科書展示会の開催ほか
6月定例会	—	—	2件 教育財産の取得ほか	9件	市議会6月定例会議の一般質問ほか
7月定例会	—	—	1件 令和4（2022）年度一般会計補正予算（第8号）	7件	市成人式「新成人フェスティバル2021」の開催ほか
8月定例会	—	—	2件 令和4（2022）年度一般会計補正予算（第10号）ほか	8件	第57回柏崎刈羽地区児童生徒科学作品展ほか
9月定例会	—	2件 市文化財保護審議会委員の委嘱ほか	—	10件	市議会9月定例会議の一般質問ほか
10月定例会	—	—	—	13件	小中学校学区外就学許可状況（4月～9月）ほか
10月臨時会	—	—	—	1件	市立小・中学校の統合及び学区の見直しに係る第1次答申
11月定例会	—	—	3件 令和4（2022）年度一般会計補正予算（第13号）ほか	9件	第24回全市一斉地場産給食デーの実施報告ほか
12月定例会	—	—	—	9件	市議会12月定例会議の一般質問ほか
1月定例会	2件 市部活動指導員任用要綱の一部改正ほか	—	2件 令和4（2022）年度一般会計補正予算（第18号）ほか	3件	令和5（2023）年第92回元朝体操会の開催報告ほか
2月定例会	12件 市教育委員会個人情報の保護に関する法律等施行規則の制定ほか	1件 委員の辞職	1件 令和5（2023）年度教育委員会予算	6件	第53回新潟県ジュニア美術展覧会柏崎展の開催報告ほか
3月定例会	5件 市文化財における災害関連事業費補助金交付要綱の制定ほか	3件 令和5（2023）年度教育委員会事務局等の人事異動内示ほか	3件 令和4（2022）年度一般会計補正予算（第22号）ほか	15件	市議会2月定例会議の一般質問ほか
計	26件	14件	18件	106件	

2 学校訪問

- (1) 令和4（2022）年7月15日（金） 荒浜小学校、松浜中学校、大洲小学校、第三中学校
- (2) 令和4（2022）年7月21日（木） 剣野小学校、鯨波小学校、米山小学校
- (3) 令和4（2022）年10月21日（金） 北条中学校、北条小学校、鯖石小学校、第五中学校

・学校訪問の趣旨

- (1) 学校訪問を通して、学校の現状や課題、小中一貫教育の取組等を把握し、教育行政に役立てる。
- (2) 学習活動の参観や教職員との懇談等を通して、教育実践の高揚を図る。

・学校訪問の概要

授業や集会など児童生徒の教育活動の参観、校長による学校運営説明、教職員との懇談、教育委員指導など

3 総合教育会議（市長と教育委員会が、市の教育や子育て施策について幅広く話し合う会議）

令和4（2022）年11月10日（木） 市役所

議題

- (1) 学区等審議会からの答申を踏まえた学区再編に関する意見交換
- (2) その他

4 出席事業

4月：教育委員会招集校長会

5月：二十歳のつどい、市功労者表彰審査会

7月：ぎおん柏崎まつりマーチングパレード

9月：新成人フェスティバル2021

10月：柏崎市美術展覧会（市展）表彰式

2月：教育委員会表彰式

1 子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・後期基本計画における施策の方針】

未来の担い手となる子どもたちの「生きる力」を育むため、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む、知徳体のバランスの取れた教育を推進します。

子どもたちが自ら学ぶ意欲を高め、将来にわたり社会の中で生きて働くための学力をしっかりと身に付けさせるため、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を進めるとともに、デジタル教材を効果的に活用し、基礎学力を向上させる教育を推進します。

また、学校の教育活動全体を通して道徳教育を充実させるほか、地域活動への積極的参加や優れた芸術文化に触れる機会の創設などに取り組み、豊かな人間性を育む教育を推進します。

さらに、子どもたちの体力を高めるために、各校で重点を定めた1学校1取組を進め、運動の楽しさや喜びを味わいながら、自らの体力の向上を実感することができる教育を推進します。また、食とスポーツを連携させて望ましい生活習慣を確立し、健やかな体を育む教育を推進します。

学校と家庭、あるいは学校と地域や企業等が連携し、より良い生活習慣づくりに取り組むとともに、ふるさと柏崎をこよなく愛する子どもたちを育て、将来の柏崎を担う人材を育成します。

あわせて、良好な教育環境とするため、学校の施設や設備、教材の充実、担任や担当者のニーズに合った研修の推進、心の相談体制の充実、学校施設の計画的な改築や改修、ICT支援員の配置などを進めます。

◆ 主な事業

教育総務課

○ 学区等審議会経費

令和3（2021）年12月に教育委員会が策定した市立小・中学校学区再編方針のうち、令和6（2024）年に示した小中学校の統合及び学区見直しの諮問について、期限である令和4（2022）年10月31日に学区等審議会から答申を受領することができた。

学校教育課

○ 通級指導教室事業

榎原小学校に言語障害通級指導教室、比角小学校に発達障害通級指導教室を新設し、通級指導教室の環境を整備した。また、通級指導担当者への研修会を通して担当者の指導力向上や児童生徒の実態に合った教室環境の整備を図ることができた。今後は、令和8（2026）年度の通級指導担当教員の基礎定数化に向けた通級指導担当教員の育成や、児童生徒の適切な学びの場を整備していく必要がある。

○ 特別支援学級介助事業

小学校15校に、前年度より2名多い37名の特別支援学級介助員を配置し、特別支援学級に在籍する児童が安心できる環境で充実した学校生活を送れるよう支援することができた。今後も、特別支援学級在籍児童数の増減や学級児童生徒の実態を考慮しながら介助員を配置していくことや、個々の特性に応じた支援方法を学ぶ機会を作り、適切に介助できる学校体制につなげることが重要である。

○ 学力向上推進プロジェクト事業

学力向上推進員による、ICTツール活用方法の提案や、よい実践事例紹介の発信は、各校の教員の授業力及びICTスキル向上へつながった。また、県外視察及び報告会により、先進的な取組が後期の授業や各校の研究にいかされた。さらに、全国学力・学習状況調査を授業づくりにいかす研修や、教科・学年を絞った学力向上研修を実施し、更なる学力向上に努めていく。

文化・生涯学習課

○ 地域学校協働活動推進事業

小中学校に地域コーディネーター（37名）を配置した。講義の受講とグループ討議により学校と地域の課題を整理して、学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動や地域の行事に学校が参画して、共に地域づくりに関わる活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみでの子どもの育成につなげることができた。

地域コーディネーター・学校担当職員を対象とした「地域と学校の連携・協働について～柏崎ステップアップ学びプランとの関連から～」についての講義・演習を実施し、地域コーディネーター21人・学校担当者29人の計50人が受講し、人材の育成につなげることができた。

○ ジュニア・リーダー養成事業

柏崎市内の小中学生を対象に、子ども会などでリーダーとして活躍できる知識や技能を身に付けることを目的として7回の研修を実施した。年齢や学区の異なる22人の児童生徒が参加し、互いに協力して活動することを通して、社会性や協調性を育むことができた。また、子どもが自ら考え、主体的に活動することを念頭に研修を進め、リーダーとしての資質を養うことにつながった。

図書館

○ 移動図書館事業

図書館利用が困難な市民が多様な図書に出会う機会を提供し、市民の読書活動の充実を支援することができた。移動図書館は利用者が3,136人、貸出冊数が8,664点であった。貸出文庫は利用団体数が67団体、貸出冊数が17,260点であった。

○ 図書館サービス事業

学校読書支援員5名が小学校20校を巡回し、学校図書館の読書環境整備や児童への読書支援を行うことができた。20校の満足度調査では、全体を通して「大変良い」・「まあまあ良い」が93.6%と評価を得た。柏崎高校の授業の一環である「柏崎サイエンスプロジェクト（KSP）」活動への支援として、12班60人の生徒にレファレンスを行った。高校図書室との連携も良好に行われている。

(1) 知徳体のバランスの取れた教育を進める

ア 基礎学力をしっかりと身に付ける教育の推進

イ 他者を思いやり、豊かな人間性を育む教育の推進

ウ 体力を高め、健やかな体をはぐくむ教育の推進

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
1 学校教育活動推進事業 [学校教育課]	14,854	14,356	特色ある教育活動を推進するため、全小中学校に奨励金を交付したことにより、各学校で工夫した取組が行われた。 <奨励金>（例）柏崎小：315,000円 第一中：226,500円 <内訳>校外学習等の輸送費、各種行事（地域との交流）に係る経費等	○ コロナ禍で制限の多い1年であったが、各学校が体験活動、キャリア教育、小中学校と地域が連携した取組などを工夫して実践し、特色ある教育活動を推進することができた。 ● 各学校が目指す子ども像を明確にし、今まで以上に工夫した取組を実践する。また、ウィズコロナの状況下で、活動方法を工夫しながら、事業を推進する。	A
2 英語教育推進事業 [学校教育課]	30,095	27,839	小中学校における英語教育と国際理解教育の充実を図るため、常勤5名、非常勤1名のALT（外国語指導助手）を配置・活用した。小学校の外国語活動や中学校の英語授業で教諭とのチームティーチングなどを実施した。	○ ALTの活用により、英語によるコミュニケーション活動が活発かつ効果的に行われた。1名のALTの交代があったが、ALT研修会において支援を行うなど、事業は予定どおり実施することができた。 ● ALTの授業力向上を目指し、月1回のALT会議等における授業研修を更に推進する。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
3 指導補助事業 [学校教育課]	122,046	118,084	小中学校27校に、前年度より2名多い45名の指導補助員を配置し、学習指導や生徒指導等の充実に向けた支援を行った。 小中学校5校に3名の日本語指導員を配置し、外国にルーツをもつ児童生徒7名の日本語力向上に向けた支援を行った（半田小、榎原小、鯨波小、比角小、第二中）。 中学校8校に10名の部活動指導員を配置し、部活動の充実に向けた支援を行った（第一中・第三中・鏡が沖中・瑞穂中・松浜中・南中・東中・西山中）。	○ 指導補助員の配置により、授業の狙いの達成に結び付くきめ細やかな指導・支援が行われ、児童生徒一人一人の能力を伸ばす教育が推進された。 日本語指導員の配置により、外国人等の日本語指導や就学支援で成果が見られた。 部活動指導員の配置により、教員の負担軽減につながった。 ● 全国学力学習状況調査及び総合学力調査では、学校差や個人差が課題となっており、効果的な指導補助員の活用法を共有していく必要がある。 日本語指導員は、今後もニーズの増加が予想される。必要に応じた配置を行う。 部活動指導員は、継続的な人員の確保に努める。	A
4 小・中学校音楽関連事業 [学校教育課]	1,154	1,099	豊かな感性とふるさと柏崎に対する誇りや愛着を育むことを目的に、東京混声合唱団を招き、Ave verum corpusや浜千鳥の四重唱を、市内小学5年生・中学1年生が鑑賞する場を設定した。10月20日（木）アルフォーレで、午前・午後の2部構成で開催した。	○ 市内児童637人、生徒596人が鑑賞した。事後アンケートでは、合唱の美しさや、郷土に縁のある童謡「浜千鳥」に関心を持ったなどの肯定的な感想が90%であった。 ● 児童生徒がより興味や関心を高められるよう、事前資料の充実を図る。また、豊かな感性を育めるよう、事後学習を充実させる必要がある。	A
5 科学技術教育事業 [教育センター]	8,246	7,707	教職員の理科・生活科・総合・環境教育等の専門研修・相談支援のため研修会を実施した（42回参加者数252人）。 科学教育振興として科学作品展・科学研究発表会・科学のえんま市2022等の事業を11回実施した（参加者数3,643人）。 科学教育支援として、学校等の要請研修（63回・1,871人）・教材機器等貸出し（112件）・理科教育相談支援（348件）を行った。	○ 研修会参加者自己評価の結果は、「研修内容が分かりやすいか」「教材の提案は妥当か」「指導に生かしたいか」とも100%肯定的な評価であった。 ● 個別最適化した深い学びの実現に向け、学習用タブレットの有効活用の研修を設けていく必要がある。また、センター作成のデジタル教材の活用が伸びないことから広報及び研修内容に組み入れる必要がある。	A
6 教職員研修事業 [教育センター]	4,577	4,198	教職員の資質・能力向上のため、対面研修と遠隔型研修を組み合わせながら講座を実施した。 講座回数150回（前年度：108回） 受講者数2,932人（前年度：2,229人）	○ 対面型と遠隔型の良さをいかして、学力向上に関する講座やGIGAスクール端末研修、社会のニーズに応える研修等を実施し、多くの参加者から肯定的な評価を得た。 ● 児童生徒の学力向上につながる授業改善のための研修を実施する。また、GIGAスクール端末関連研修や学校現場のニーズに応える魅力ある研修を企画・運営する必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
7 一般教材整備費 [学校教育課]	13,214	13,196	小学校に、国語・算数(全学年)、社会・地図(5・6年)、理科(3～6学年)のデジタル教科書(※)を整備した。 中学校に、国語・社会・数学・理科・英語(全学年)のデジタル教科書を整備した。 GIGAスクール構想(※)の導入に伴い、インターネットを通じて遠隔授業や課題提示等を行うために、著作権法が規定する授業目的公共送信の補償金を支払った。	○ デジタル教科書の整備を進め、小中学校において電子黒板や学習用タブレットとともに一層の活用を図った。課題提示や問題解決の場面で、デジタル教科書を効果的に活用することにより児童生徒の理解を深めることができた。 ● 研修内容を充実させ、有効活用するための教員への指導を進めてきたが、まだデジタル教科書活用に学校差や個人差がある。年度途中の活用状況を確認し、校長会等を通じて一層の活用促進を呼び掛けることで、児童生徒の学力向上につなげる。	A
8 学校医報酬等 [学校教育課]	17,945	17,504	学校医、学校歯科医により全小中学校全学年及び新年度小学校入学予定者に内科及び歯科検診、小学校1、3、5年及び中学校1、3年に耳鼻科及び眼科検診を実施した。感染症拡大防止に向け、学校医より助言を受けた。 学校薬剤師により、全小中学校で環境衛生検査を実施した。	○ 市立小中学校の児童生徒に対して健康診断を実施し、健康な学校生活を送るための基盤づくりに寄与した。 学校医の助言が、感染症拡大防止に役立った。 ● 学校医の確保、医師会・歯科医師会からの要望への対応や、感染症対応における学校医との連携を丁寧に行っていく必要がある。	A
9 検診費 [学校教育課]	8,792	7,230	小中学校の定期健康診断(内科・歯科・耳鼻科・眼科・検尿・心電図)と二次健診(小児生活習慣病、せき柱側わん症、運動器検診精密検査)を実施した。小児生活習慣病検診は、肥満度が高い児童生徒及び保護者を対象に生活改善も目的に実施した(受診者数小学生33人、中学生13人)。 教職員の健康診断(一般・歯科)、ストレスチェック事業を実施した。	○ 市立小中学校の児童生徒、教職員に対して健康診断を実施し、引き続き健康な学校生活を送るための基盤づくりに寄与した。 ● 健康診断結果を参考に児童生徒及び教職員の健康上の特性に合わせた健診内容について、検討していく必要がある。	A
10 むし歯予防対策費 [学校教育課]	4,008	3,276	学齢期歯科保健事業(歯科健康教室、就学時保護者歯科健康教育、継続的歯科保健事業)の歯科衛生士派遣及び歯科保健教材を活用したむし歯予防、歯肉炎予防などの歯科保健活動を実施した。 フッ化物洗口事業を全小中学校で保護者の同意を得て実施した(実施率97.6%)。	○ 全小中学校で歯科健康教室やフッ化物洗口事業を計画どおり遂行し、児童生徒の口くう衛生の維持・向上につながった。 ● 学齢期からのむし歯予防や歯肉炎予防のため、引き続き事業を継続していく必要がある。	A
11 学校保健推進費 [学校教育課]	6,921	5,893	検診器具管理の業務委託により器具の消毒と配送業務が遂行された。 中学校で健康観察アプリを導入し、感染症拡大予防の健康観察を実施した。 外部講師(助産師等)を全中学校に派遣し、思春期保健に関する専門的な指導を行った。	○ 検診器具の適切な管理により健康診断を安全に実施できた。健康観察アプリを生徒や保護者が使用したことや外部講師による専門的指導は、児童生徒及び教職員の健康意識の向上に有効であった。 ● 現場のニーズに合った保健教材や健康観察アプリの有効な活用方法について検討する必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
12 移動図書館事業 [図書館]	2,812	1,723	<p>移動図書館 小学校19校に月1回程度巡回し、児童の読書推進を図った。161回（昨年度166回） ・貸出利用…3,136人、8,664点（昨年度3,330人、8,766点）</p> <p>貸出文庫 コミセンや介護福祉施設、幼稚園・保育園等67（昨年度69）の希望団体に40～50冊程度の図書を貸し出し、施設利用者の読書推進を図った。 ・利用数…17,260点（昨年度17,580点）</p>	<p>○ 各小学校や施設においても多くの図書から主体的に本を選ぶことができるため、読書への興味や意欲を高めることができた。また、図書の内容も入れ替わるため、読書の幅を広げる機会となるなど、市民の読書活動の支援を行うことができた。</p> <p>● 市民が充実した読書機会を得られるよう、引き続き事業を継続し、活用を促していく必要がある。</p>	A
13 図書館サービス事業 [図書館]	56,963	56,305	<p>資料の整理・貸出・登録・修理など利用者の環境整備とソフィアだよりの発行やホームページなどにより広報を行った。また、資料の特設展示を42回行った。</p> <p>・貸出者数 …101,721人（昨年度99,083人） ・貸出冊数 …307,329点（昨年度314,011点） ・入館者数 …239,516人（昨年度233,152人）</p> <p>利用者のレファレンス照会に対応した。 ・対応実績 …1,192件（前年度1,184件） 柏崎高校おすすめ図書の紹介と「柏崎サイエンスプロジェクト（KSP）」の活動支援を実施した。 ・利用実績 …12班60人（前年度20班78人）</p> <p>学校読書支援員5人が小学校20校を巡回し、図書の廃棄、書架整理、資料整備、読書指導など、学校図書館の読書環境整備と児童に対する読書支援を行った。また、学校に対し支援活動の満足度調査を実施し、学校との連携を図った。</p>	<p>○ 冬季に大雪の影響による来館者減少も一時的にあったが、年間では貸出者数・入館者数が増加した。貸出冊数は減少した。</p> <p>○ レファレンス対応や特設展示により、引き続き市民の生涯学習の支援を行うことができた。 柏崎高校の「柏崎サイエンスプロジェクト（KSP）」活動への支援を継続していることにより、高校図書館とも良好な連携が行われてきている。</p> <p>○ 学校読書支援員の巡回支援により、児童の読書への興味や学習意欲の向上に寄与することができた。小学校の担当者への満足度調査では、全体を通して「大変良い」「まあまあ良い」が93.6%（前年度93.4%）と評価を得た。</p> <p>● 読書環境の充実や読書機会の創出に引き続き取り組むとともに積極的な情報発信をすることで、幅広い市民からの図書館施設の利用促進を図る必要がある。</p> <p>● 学校読書支援員による小学校図書館の支援体制を継続するとともに、中学校図書館の環境整備について支援の必要性を検討する必要がある。</p>	A

(2) 地域の人・もの・資源を活かして若者を育てる

- ア ふるさと柏崎をこよなく愛し、発展させる人材の育成
 イ 教育における学校・家庭・地域の連携
 ウ 子どもの健全育成支援の推進

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
14	かしわざき子ども大学事業 [学校教育課]	6,844	5,002	地域団体や大学等と連携して4コースの事業を実施するとともに、こどもの笑顔創造プロジェクト及び学校教育活動推進事業を実施した。 自然体験コース(30園547人参加)キャリア教育コース(4校305人参加)ロボット工作コース(工作クラブ5校実施49人参加、工作教室・交流協議会13人参加)科学実験コース(2回実施、94人参加)こどもの笑顔創造プロジェクト(10団体延べ4,676人参加) 学校教育活動推進事業(市内小中学校31校参加) なお、支出について、キャリア教育コース、学校教育活動推進事業は別科目となっている。	○ 感染症対策を講じながら、地域団体や大学等と連携し、学校や家庭だけでは体験できない様々な活動の場を提供し、子どもたちの生きる力を育むことができた。 ● 財源であるかしわざき子ども育成基金の残高が減少しているため、新たな財源の確保を検討する必要がある。	A
15	通級指導教室事業 [学校教育課]	645	542	横原小学校に言語障害通級指導教室、比角小学校に発達障害通級指導教室をそれぞれ新設した。指導に必要な教材や教材研究のための書籍購入等の支援、通級指導教室の環境整備を行った。 通級指導担当者主催の研修会は、年4回実施した。 (通級指導教室利用児童生徒数) 小学校:243人(前年度:183人) 中学校:74人(前年度:45人)	○ 担当者の指導力向上、教室環境の整備につながり、多様な教育的ニーズのある児童生徒が専門的な指導・支援を受けることができ、在籍校での適応力が向上した。 ● 通級指導教室を利用する児童生徒の増加や教育的ニーズの多様化が顕著に見られる。通級指導教室の新設も含め、教室環境の整備や指導のために必要な情報端末等の更新、指導者の育成等が必要である。	S
16	特別支援学級介助事業 [学校教育課]	95,430	92,404	小学校15校に、前年度より2名多い37名の特別支援学級介助員を配置し、特別支援学級に在籍する児童が安心できる環境で充実した学校生活を送れるよう支援した。指導力向上のため研修を充実させた。 (特別支援学級在籍児童生徒数) 小学校:228人(前年度:254人) 中学校:93人(前年度:105人) (特別支援学級数) 小学校:50学級(前年度:55学級) 中学校:25学級(前年度:23学級)	○ 特別支援学級に在籍する児童の個性・特性に応じて適切に介助員を配置したことにより、児童生徒の安定した学校生活につながった。年間の研修により、児童の特性や具体的支援方策の理解を深め、実践につなげることができた。 ● 介助員の配置については、特別支援学級在籍児童数の増減と個々の特性を考慮しながら検討していく必要がある。	A
17	特別支援教育推進事業 [学校教育課]	6,752	6,181	特別支援教育会議では、幼児部会・小中部会合わせて、138件の審議を行った。園巡回訪問、小中学校の授業参観、発達検査等を行い、障害の種類や程度に応じた個別の支援の必要性を判断した。 スクールサポート巡回相談では、前期と後期を合わせて35人の相談依頼があり、専門員が分担して巡回相談を行った。	○ 専門員による丁寧な調査活動により、保護者の理解を得られ、おおむね適正な就学につながる判断を出すことができた。 ● 複雑な要因のあるケースへの対応が増えている。特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターはもちろん、通常学級担任も含めた全ての教職員について、特別支援教育に関する資質向上のための研修の充実が求められる。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
18	キャリア教育推進事業 [学校教育課]	3,421	2,780	キャリア教育講演会は、中学校で、延べ35の個人・団体を講師に招いて、生き方や柏崎の文化、農業、地域貢献等に関するキャリア教育講演会等を行った。(例)第五中:「職業講話 酒造り」(原吉隆氏)、北条中:「地域社会への貢献」(水戸部智氏)、西山中:「循環とSDGs」(霜田真紀子氏)モデル校4校において「起業学習」を実施した。市内の起業家から直接学ぶことで、生徒のチャレンジ精神や探求心を育んだ。	○ キャリア教育講演会や起業学習を通して、児童生徒は、自分らしい生き方を実現するために必要なことについて学ぶことができた。 ● キャリア教育講演会は、年度始めにしっかりと計画し、確実に実施するよう指導する必要がある。	A
19	就学援助費 [学校教育課]	85,271	74,215	経済的理由で就学困難な児童380人、生徒271人の保護者に、小中学校における必要経費(学用品費、学校給食費等)の一部を援助した。また、令和5(2023)年度に入学予定の経済的理由で就学困難な児童26名及び生徒66名の保護者に、新入学学用品費等を入学前に援助した。	○ 就学困難な児童生徒の保護者に援助費を支給し、保護者の負担軽減を図ることができた。 ● 小中学校の在籍児童生徒数は年々減少しているが、在籍児童生徒数に占める認定者の人数はほぼ変わりなく、今後も継続して事業を行う必要がある。また、学校と連携しながら保護者への制度周知を徹底していく必要がある。	A
20	就学奨励費 [学校教育課]	12,383	9,273	特別支援学級に在籍する児童133人・生徒56人、他校の通級指導教室に通う児童58人・生徒8人の保護者に、小中学校における必要経費(学用品費、学校給食費、交通費等)の一部を援助した。	○ 特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に奨励費を支給し、保護者の負担軽減を図ることができた。 ● 小中学校の在籍児童生徒数は年々減少しているが、特別支援学級在籍者は、ほぼ横ばいで推移している。今後も特別支援学級等に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減し、就学環境を保障する必要がある。	A
21	心の教室相談員事業 [学校教育課]	1,633	956	県スクールカウンセラーの派遣回数が少ない中学校6校に対し4名の「心の教室相談員」を配置した。日常生活の何気ない関わりから、不安や悩みを抱える生徒に対し丁寧な対応を行った。生徒との関わりは延べ477件、教育相談は44件の報告があった。昨年度よりも相談員と継続して相談する生徒が増えた。	○ 学校の実態に応じたよりきめ細やかな相談支援業務を実施することができ、生徒の悩み軽減や自己肯定感の向上につながった。 ● 相談内容が多様である。学校と相談員の連携がより求められる。相談員の確保も課題である。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
22	地域で育む子ども育成事業 【文化・生涯学習課】	705	457	各P T A団体が主体となって行う子ども育成事業を柏崎市小中学校P T A連合会（市P連）と協力して事業展開したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止や横原小学校大規模改修のため、中止した事業（2事業）もあった。 ・市P連事業 2事業（令和3（2021）年度 1事業） ・各P T A団体事業 14事業（令和3（2021）年度 16事業）	各種研修会等の事業を開催することにより、市P連、地区P T A会員の知識を深めるとともに、子どもたちの育成にもつながった。 田尻小学校P T Aが令和4年度優良P T A文部科学大臣表彰を受賞した。 ● 子どもたちを取り巻く環境は、日々変化しているため、P T Aの知識向上を図る上で、今後も各種研修会等を続けていく必要がある。	A
23	地域学校協働活動推進事業 【文化・生涯学習課】	3,900	2,408	小中学校に地域コーディネーター（37名）を配置し、従来の地域が学校を支援するという一方の活動から、学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動を実施した。 地域の行事に学校が参画して、共に地域づくりに関わる活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみでの子どもの育成につなげる。 地域コーディネーター・学校担当者を対象とした「地域と学校の連携・協働について～柏崎ステップアップ学びプランとの関連から～」についての講義・演習を実施し、地域コーディネーター21人・学校担当者29人の計50人が受講した。	○ 講義の受講とグループ討議により学校と地域の課題を整理して、学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動や地域の行事に学校が参画して、共に地域づくりに関わる活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみでの子どもの育成につなげることができた。 ● 学校や地域の課題を整理、共有することで地域の人材を効果的に結び付けながら、地域ぐるみで継続して教育活動を支援していく必要がある。	A
24	なぎさ体験塾 【文化・生涯学習課】	225	0	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	○ 中止のため成果なし ● 新型コロナウイルス感染症の影響で令和元（2019）年を最後に3年間中止となっており、次回の開催ではクオリティが下がらないよう準備をする必要がある。	-
25	ジュニアリーダー養成事業 【文化・生涯学習課】	(75)	(35)	柏崎市子ども会連合会との協働により、柏崎市内の小中学生を対象に、子ども会などでリーダーとして活躍できる知識や技能を身に付けることを目的とした研修を実施した。 ・ジュニア・リーダー養成研修参加者 22人（令和3（2021）年度29人） ・研修実施回数 7回（令和3（2021）年度7回） ※新型コロナウイルス感染症の影響で1回を中止した。	○ 年齢や学区の異なる児童生徒が研修に参加することで、互いに協力して活動することを通して、社会性や協調性を育むことができた。また、子どもが自ら考え、主体的に活動することを念頭に研修を進め、リーダーとしての資質を養うことにつながった。 ● 子ども会活動に限らず、各地域における行事等において研修で得た知識や技術をいかして中心的な役割を果たせる人材の育成を目指して事業を進めていく必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
子どもフェスタ運営事業 〔文化・生涯学習課〕	68	41	<p>柏崎市子ども会連合会と協働し、子どもの心身の健康を増進し情操を豊かにすることを目指し、トライウオーク&こどもフェスタ、ニュースポ・パラスポ&こどもの遊びの広場2022（福祉課、スポーツ振興課連携）、冬のこどもフェスタを開催した。なお、開催を予定していたこどもスポーツフェスタについては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライウオーク&こどもフェスタ参加者 113人（令和3（2021）年度135人） ・ニュースポ・パラスポ&こどもの遊びの広場2022参加者 87人（令和3（2021）年度208人） ・冬のこどもフェスタ参加者 147人（令和3（2021）年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止） 	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったが多数の参加があり、体験活動や参加者相互の交流を通して、青少年の健全育成に寄与することができた。</p> <p>● 活発な事業実施を目指し、内容の改善や更新に取り組む。子ども会活動の活性化のために本事業を活用してもらえよう、地域の子ども会との連携を深める必要がある。</p>	A

(3) 教育環境を充実させる

ア 良好な教育環境の整備

イ 教育現場のICT環境の充実

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
学力向上推進プロジェクト事業 〔学校教育課〕	3,928	3,782	<p>学力向上推進員1名を新たに任用し、学校訪問による助言、ICTツールの活用方法の提案等を実施した。また、学力向上先進校の県外視察（7/1東京都杉並区教育委員会2名参加、7/14～16秋田県大館市4名参加）を実施し、9/6に市内小中学校研究主任を対象として視察報告会を実施した。</p>	<p>○ 学力向上推進員による、ICTツールの活用方法の提案や、良い実践事例紹介の発信は、授業力及びICTスキル向上へつながった。また、多くの学校が、他県の先進的な取組を後期の授業に役立てたり、自校の研究に取り込んだりすることができた。</p> <p>● 全国学力・学習状況調査の過去問題の具体的ないかし方に関する研修や、教科・学年を絞った学力向上研修も必要である。そこで、小中学校共に、国語、算数・数学の授業力を高める研修を設定する。</p>	A
環境衛生検査費 〔学校教育課〕	1,451	1,406	<p>学校薬剤師による学校環境衛生定期検査及び学校給食衛生管理定期検査を実施した（全小中学校）。</p>	<p>○ 市立小中学校の環境衛生検査を実施し、健全な教育環境が保たれた。</p> <p>● 健全な環境を維持するために検査を継続する必要がある。</p>	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
29 学区等審議会経費 [教育総務課]	5,476	2,925	市立小中学校の通学区の再編や学校の再配置について、学区等審議会による調査や審議が行われ、教育委員会に答申が提出された。 ・委員数 20人 ・任期 令和4(2022)年4月1日～(2年) ・審議会 18回(1次:14回、2次:4回) ・学校訪問 4回 ・意見拝聴会(教育委員会主催) 4回 ・意見交換会(審議会主催) 4回 ・市長、教育長との意見交換会 2回 ・市長、教育長による再編説明会 3回	○ 令和3(2021)年12月に教育委員会が策定した市立小・中学校学区再編方針のうち、令和6(2024)年に示した小・中学校の統合及び学区見直しの諮問について、期限である令和4(2022)年10月31日に学区等審議会から答申を受領することができた。 ● 令和8(2026)年に示した小学校の統合(日吉小と中通小、剣野小と鯨波小、米山小)について、学区等審議会から令和5(2023)年12月31日までに答申を提出いただけるよう審議会の運営を行っていく必要がある。	A
30 奨学金貸付事業 [教育総務課]	42,034	39,625	経済的な理由により大学・短期大学・専修学校(専門課程)への就学が困難な学生に学資の貸付けを行った。 ・令和4(2022)年度貸付者総数64人(R3:62人) ・令和4(2022)年度新規貸付者13人(R3:18人) うち、大学等在学生(編入生含む。)2人(R3:4人)	○ 新規貸付者13人を含む64人に貸付けをし、教育の機会均等の向上が図られた。また、令和3(2021)年度から他の奨学金制度との併給を可能にし、大学等在学生の申請を認めた。これにより、2人の大学等在学生から申請があり、更に幅広く学生への支援を行うことができた。 ● 学生が更に利用しやすい制度とするために、社会情勢等に合わせた制度の見直しを行っていく。	A
31 学校管理運営費 (感染症対策経費を抜粋) [教育総務課]	11,646	10,088	新型コロナウイルス感染症対策として、国の補助金を活用し、小中学校に衛生管理用品の配付や、消毒作業員を配置した。 ・衛生管理用品(3,958千円) ・消毒作業員手数料(6,130千円) 作業期間:令和4(2022)年4月～9月 従事者数:小学校73人+中学校42人(合計115人)	○ 小中学校の衛生管理用品の配付や校内の消毒作業を行うことにより、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に寄与するとともに、教職員の負担軽減が図られた。 ● 児童生徒が安全で安心して学習に取り組める環境を確保する。	A
32 学校管理運営費 (校舎戸締まり等委託業務経費) [教育総務課]	3,440	3,273	教職員の働き方改革及び多忙化解消の一環として、小学校5校、中学校5校をモデル校に選定し、教職員の負担となっていた日直業務を民間に委託するとともに、日直業務員が退校を促すことにより長時間勤務の改善を図った。	○ 日直業務員の導入により、午後7時30分完全退勤を推進し、教職員の働き方改革及び長時間勤務の改善が図られた。 ● 日直業務員を配置していない学校について、退勤時間が遅くなる傾向がみられる。また、委託先の日直業務員の継続的な確保が厳しい状況である。	A
33 学校用務員委託事業 [教育総務課]	116,451	116,451	用務員業務を民間2社に委託し、全ての小中学校に用務員を配置している。 令和3(2021)年8月1日から令和6(2024)年7月31日までの3年間の長期継続契約である。	○ 学校用務員業務を適正かつ確実にを行い、学校教育環境の維持が図られた。 ● 学校、受託者と連携しながら、用務員の資質の維持・向上を図り、学校教育環境の適切な管理を行っていく。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
34 通学支援事業 【教育総務課】	115,549	99,863	<p>・遠距離通学の児童生徒に対して、通学支援（スクールバスの運行や通学定期券の支給）を実施した。登下校のほか、校外学習等の移動手段として利用した。</p> <p>・スクールバスの校外利用申請の受付及び運行手配業務を運行委託事業者に委託した。</p> <p>【通学距離基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生：片道 2.5km 中学生：片道 夏期4.5km、冬期3.5km <p>【通学支援を受けた人数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4（2022）年度 611人 令和3（2021）年度 585人 	<p>○ スクールバスの運行計画の再編を行うことにより、遠距離通学の児童生徒の負担軽減が図られた。また、スクールバス校外利用申請受付業務を運行委託事業者に委託し、業務の効率化を図った。</p> <p>● 児童生徒の安全な通学支援を行うために、適正な運行管理を行うとともに、車両を良好な状態で運行するため、老朽化した車両を計画的に更新する。また、学校の意見を聞きながら児童生徒が通学しやすい環境を整備する必要がある。</p>	A
35 情報機器管理費 【教育総務課】	200,944	200,943	<p>包括アウトソーシング（平成30（2018）年4月1日～令和5（2023）年3月31日）を外部委託し、教務室、教室等の情報環境の整備及び情報機器の保守管理を効率的に実施した。</p>	<p>○ 教育におけるICT（※）の促進及び校務の効率化が図られた。また、GIGAスクール構想を推進するため、引き続きICT支援室を設置し、児童生徒及び教職員が情報機器を有効に活用する支援を行うことができた。</p> <p>● ICTを活用した情報教育の更なる促進のため、必要な情報機器等の活用方法や支援策をICT連絡会議で検討する必要がある。</p>	A
36 学校施設長寿命化事業 【教育総務課】	進次繰越 475,193 (※)	進次繰越 389,611	<p>檜原小学校大規模改修・校舎棟増築工事（令和3（2021）・令和4（2022）年継続事業）のⅡ期工事を実施。老朽化した校舎及び屋内体育館の外部・内部の改修やトイレ改修工事を実施した。</p>	<p>○ 老朽化部分の大規模改修工事及び施設の長寿命化工事により、利便性及び快適性が向上し、良好な教育環境の整備ができた。</p> <p>● 児童の安全・安心、また、災害時の地域住民の避難所・避難場所としての機能を果たす学校施設とするため、「学校施設等長寿命化計画（個別施設計画）」に基づいた計画的な改修を進めていく必要がある。</p>	A
37 小学校施設整備事業 【教育総務課】	328,729 繰越明許 184,300 (※)	95,244 繰越明許 180,644	<p>柏崎小学校の劣化した屋上防水と一部校舎の外壁改修工事を実施するとともに、内郷小学校の体育館天井改修工事と鯖石小学校の外壁・防水改修工事を実施した。</p> <p>【決算額内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> （現年）柏崎小学校 屋上防水・外壁改修工事 95,244,600円 （明許）内郷小学校 体育館天井改修工事 29,239,100円 （明許）鯖石小学校 外壁・屋上防水改修工事 151,405,100円 <p>現年度予算のうち、令和5（2023）年度予定工事で国の令和4（2022）年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和4（2022）年度に前倒し補正し、令和5（2023）年度予算に明許繰越する。</p> <p>【繰越額】228,500千円（二田小学校トイレ改修工事ほか4件）</p>	<p>○ 老朽化部分の改修、体育館天井の耐震化工事により、児童にとって安全・安心で、かつ、良好な教育環境の整備ができた。</p> <p>● 老朽化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、児童の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。</p>	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
38	小学校グラウンド補修事業 [教育総務課]	繰越明許 125,000	繰越明許 96,377	半田小学校グラウンドの劣化した表面舗装と排水機能を改善するための改修工事を実施した。	○ グラウンドの表面舗装や排水機能が改善され、児童にとって安全・安心で、かつ、良好な教育環境の整備ができた。 ● 経年劣化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、児童の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。	A
39	荒浜小学校改築事業 [教育総務課]	539,990	92,406	老朽化した校舎棟を改築するため、令和3（2021）年度に実施した基本設計に基づき、改修工事に必要な実施設計を行った。また、実施設計に必要な敷地の現況測量及び用地測量を実施した。 【決算額内訳】 ・実施設計業務委託 85,743,193円 ・現況測量・用地測量業務委託 6,663,800円 現年度予算のうち、令和5（2023）年度予定工事で国の令和4（2022）年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和4（2022）年度に前倒し補正し、令和5（2023）年度予算に逐次繰越する。 【繰越額】447,090千円（改築工事Ⅰ期、工事監理業務委託Ⅰ期）	○ 築後50年以上が経過し、老朽化した校舎棟の改築事業を進め、安全・安心で、かつ、快適な教育環境を整備するとともに、適正規模の学校施設となるよう計画的に改築の準備を進めることができた。 ● 実施設計に基づき、令和5（2023）・6（2024）年度に改築工事を行い、その後の既存校舎解体工事やグラウンド改修工事の設計等を計画的に行っていく必要がある。	A
40	中学校施設整備事業 [教育総務課]	105,474	11,774	鏡が沖中学校で、自転車通学が許可されたことから駐輪場設置工事を実施した。 現年度予算のうち、令和5（2023）年度予定工事で国の令和4（2022）年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和4（2022）年度に前倒し補正し、令和5（2023）年度予算に明許繰越する。 【繰越額】93,700千円（第一中学校トイレ改修工事ほか1件）	○ 通学自転車の置き場所となる駐輪場を設置することで、生徒の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備ができた。 ● 老朽化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、生徒の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
41 東中学校改築事業 [教育総務課]	1,593,637 通次繰越 1,946,430	814,875 通次繰越 1,569,864	<ul style="list-style-type: none"> 令和2(2020)年度に行った実施設計に基づき、改築工事(令和3(2021)年・令和4(2022)年継続事業)のⅡ期工事、地中熱利用設備設置工事、太陽光発電設備設置工事及び工事監理を実施した。 老朽化したグラウンドの改修と、旧校舎棟の解体跡地に野球場等を整備するための設計を実施した。 新校舎に必要な備品を購入した。 <p>【決算額内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> (現年)委託料 26,765,257円 (現年)工事請負費 760,907,954円 (現年)備品購入費 24,679,105円 (現年)補償補填・償還金等 2,523,200円 (通次)委託料 30,944,743円 (通次)工事請負費 1,538,919,946円 <ul style="list-style-type: none"> 現年度予算のうち、令和5(2023)年度予定工事で国の令和4(2022)年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和4(2022)年度に前倒し補正し、令和5(2023)年度予算に通次繰越する。 太陽光発電設備設置工事において部品納入が年度内にできず事繰越した。 <p>【繰越額】</p> <ul style="list-style-type: none"> 669,548,000円(旧校舎解体工事、グラウンド整備工事) 20,448,900円(太陽光発電設備設置工事分) 	<ul style="list-style-type: none"> 築後40年以上が経過し、老朽化した校舎と体育館の改築事業を進め、安全・安心で、かつ、快適な教育環境を整備するとともに、適正規模の学校施設となるよう計画的に改築を進めることができた。 令和5(2023)・6(2024)年度に既存校舎・体育館の解体工事及びグラウンド整備工事を各設計に基づき計画的に行う必要がある。 	A
42 給食施設整備事業 [教育総務課]	889,729	14,617	<ul style="list-style-type: none"> 北部地区共同調理場大規模改修工事に係る委託設計を実施した。 現年度予算のうち、令和5(2023)年度予定工事で国の令和4(2022)年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和4(2022)年度に前倒し補正し、令和5(2023)年度予算に明許繰越する。 <p>【繰越額】870,000千円(北部地区共同調理場大規模改修工事)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 北部地区共同調理場の衛生管理基準に沿ったドライ化整備が行われ、施設環境が改善されることとなった。 共同調理場の調理機器が、故障・破損等や老朽化により安全性が損なわれることがないように、点検を実施し、老朽化が著しい機器は計画的に更新を図る必要がある。 	A
43 給食施設管理経費 [教育総務課]	41,012	40,123	市内8か所の学校給食調理場に対して衛生管理基準に沿った施設管理及び環境整備を行った。	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食の衛生管理基準に沿った施設管理ができた。 現行の衛生基準に則した施設整備を行うために、20年以上経過した施設の統廃合及び受配校の見直しを計画どおりに進める。 	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
44 給食業務運営経費 [教育総務課]	315,750	312,365	共同調理場の維持管理運営に必要な業務を専門の業者に委託し、また、調理場施設備品の適切な管理（入替等）や、従事者の腸内細菌検査を実施することで、小学校20校、中学校11校及びはまなす特別支援学校に安全・安心な学校給食を提供した。	○ 児童生徒に安全・安心な給食の提供が滞りなく行われた。 ● 共同調理場の統廃合及び受配校の見直しを確実に進め、効率化や経費削減に努める必要がある。施設設備に係る修繕では、修繕頻度が高くなっているため設備の更新を考える必要がある。	A
45 学校給食費 [教育総務課]	386,362	363,563	令和4（2022）年度より、学校給食会計の公会計化により、市が保護者から直接学校給食費を徴収し、給食食材の購入及び支払を行った。また、食材及び燃料費高騰対策のための国の交付金を活用し、給食費の値上げを回避した。	○ 学校教職員による学校給食費徴収業務をなくし、負担軽減が図れた。また、物価高による食材費の高騰に対する対応が素早くできた。 ● 学校給食費の未納が一定数あることから、児童生徒への影響を考慮しつつ、学校給食費未納者への有効な対策を行う必要がある。	A

2 学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・後期基本計画における施策の方針】

誰もが生涯を通じて、共に学び、学んだことを活かして活躍できる環境をつくるため、いつでも、どこでも学べる機会を創出するとともに、様々な機関・施設・団体と連携しながら、多様な生涯学習ニーズに対応する学習内容を提供します。

図書館や博物館は、生涯学習に活用される社会教育環境の充実に取り組むとともに、ICTの進展に対応できるよう施設や設備の改修を計画的に行います。学びの成果を地域社会における様々な地域活動、教育活動に活かせるよう、多様な主体と連携した生涯学習を推進します。

◆ 主な事業

文化・生涯学習課

○ マナビステージ開催事業

令和4（2022）年度は検温、消毒、観覧席制限、換気等、感染症予防対策を行い、11月12日（土）、13日（日）に市民プラザで開催した。ステージ発表では21団体（令和3（2021）年度20団体）、作品展示発表では、6団体（令和3（2021）年度7団体）の参加となった。令和3（2021）年度と同様に席数を制限したこともあり、観覧者は延べ836人（令和3（2021）年度838人）となった。日頃の公民館（学習プラザ等）での学習の成果を発表することで、活動している団体の目標（励み）にもつなげることができ、有効であった。

○ 二十歳のつどい運営事業

若者の門出を祝福するとともに、成人としての自覚と社会参加を促すことを目的として、令和4（2022）年5月3日（火・祝）に成人式を開催した。開催に当たり、参加者に陰性結果等や2週間前からの検温結果の提出を求め、参加者にとって安心安全な開催となるよう、新型コロナウイルス感染症対策を十分講じた。対象者818人に案内状を送付し、当日は564人が参加した。家族観覧者は137人であった。市民を挙げて若者を祝福するとともに、ふるさと柏崎への愛着や誇りを感じてもらうことにつながった。

○ 新成人フェスティバル運営事業

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和3（2021）年9月19日（日）に延期、令和4（2022）年3月5日（土）に再延期した成人式を、令和4（2022）年9月25日（日）に開催した。対象者819人に案内状を送付し、当日は389人が参加した。家族観覧者は140人であった。就職活動や仕事上の都合により日程が合わない等の理由で参加者人数は非常に少なかったが、延期を繰り返しようやくの開催であったため、開催を喜ぶ声が聞かれた。

図書館

○ イベント・講座開催

企画展「柏崎の花 -Spring Collection2023-」を開催した。関係課、市民団体、個人等の協力を得て、花に関する様々な展示品（市購入絵画、美術品、生け花、雪割草等）約80点を展示し、1,507人と多くの市民に来場してもらうことができた。また、郷土資料デジタルデータの利活用を進めることができた。読み聞かせボランティアの育成・研修を行い、読書活動を推進することができた。はじめての絵本セミナー「えほんライブ」に24組49人、読み聞かせボランティアスキルアップ講座に15人の参加があった。ブックスタートにより乳児361人に絵本722冊を配付し、子どもが絵本に触れ保護者が読み聞かせを行う環境づくりができた。感染防止のため検診会場へ職員1名が同席し、簡単な説明と案内書類の手渡しを行った。またブックスタート事業フォローアップとして「ふれあいブックスタート」を毎月開催した。保護者アンケートでも「大変良い」「良い」が計100%、絵本を「かなり活用している」「活用している」が計100%の評価を得た。

博物館

○ 博物館振興事業

他機関等と連携を図りながら、市民共有の財産である収蔵資料等を活用した当市固有の地域資産や文化を発信する企画展等を行い、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与することができた。また、学習指導要領に沿った取組では、毎年度テーマを変えながら「むかしのくらしと道具」展を開催している。令和4（2022）年度は、小学校3年生の学習の場等として14校の利用があり、多くの児童が学習の機会を得ることができ有効であった。なお、感染症対策として、展示解説や体験では少人数にグループ化し巡回型で行う等の取組を行い、学校の授業時間に支障なく実施することができた。

○ プラネタリウム管理運営費

年度を通じて収容制限等を行い、安心して利用できる環境を提供した。定期投影等では子どもから大人まで楽しめる番組を選定し、学習投影では内容の充実を図ることにより、天体学習の興味や理解を深めてもらうことができた。また、「熟睡プラネタリウム」や「クリスマスイベント」といったイベント投影は、合計7件を実施することができた。

(1) 学びの機会を充実させる
 ア 多様な学習・交流機会の提供
 イ 社会教育環境の充実

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
46	マナビステージ運営事業 [文化・生涯学習課]	500	500	<p>柏崎公民館（市民プラザ）等で生涯学習活動を行っている団体で実行委員会を組織し、新型コロナウイルス感染症対策に留意しマナビステージを開催した。</p> <p>参加団体 ステージ発表 21団体 （令和3（2021）年度20団体） 作品展示発表 6団体 （令和3（2021）年度7団体） 入場者数 ステージ発表 490人 （令和3（2021）年度493人） 作品展示発表 346人 （令和3（2021）年度345人）</p>	<p>○ 新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施する方法を実行委員会で検討し、開催することができた。 ステージ発表では、新規に2団体の参加を得ることができた。</p> <p>● 学習の成果を発表する場及び各種団体の交流の場として、今後も継続して開催する。 また、参加団体が固定化されないよう、新規団体の参加を促していく必要がある。</p>	A
47	社会教育委員会議運営事業 [文化・生涯学習課]	487	403	<p>第四次生涯学習推進計画（計画年度令和4～7年度）の進行状況を報告し、内容について審議を行った。自主研修として取り組んだ「柏崎市のこども食堂」を取りまとめ、教育長に報告するとともに各コミュニティセンター等関係機関に送付した。</p> <p>・委員数17人（定員17人以内） ・会議の開催回数 3回 ・第四次生涯学習推進計画の進行審議 ・研修会、研究大会の参加</p>	<p>○ 第四次生涯学習推進計画の進行管理のため、社会教育委員から審議をしていただいた。 県、中越の研修会に参加するとともに他市の情報を収集し社会教育、生涯学習の知識を高めることにつながった。 自主研修として各委員がテーマを持ち研修を行うとともに、「柏崎市のこども食堂」の報告書を取りまとめた。</p> <p>● 第四次生涯学習推進計画の実行性を高めるため、定期的、継続的に社会教育委員会議で審議を行う必要がある。 また、各種研修会に参加し、他市の取組状況など情報を収集する必要がある。</p>	A
48	市民プラザ管理事業 [文化・生涯学習課]	71,661	70,079	<p>新型コロナウイルス感染症対策を行うとともに昇降機や自動ドア修繕等を行い適切な管理を行った。</p> <p>・年間利用者数 学習プラザ 36,883人 （令和3（2021）年度 34,346人） 交流プラザ 24,225人 （令和3（2021）年度 20,271人） 計 61,108人 （令和3（2021）年度 54,617人）</p>	<p>○ 新型コロナウイルス感染症対策を行うとともに修繕を実施し、施設の適正管理に努めた。</p> <p>● 竣工後22年が経過し、老朽化が進んでいるため、計画的な修繕計画を策定する必要がある。また、学習や交流の場所として利用してもらうよう施設の適正管理に努める必要がある。</p>	A
49	二十歳のつどい [文化・生涯学習課]	1,239	1,067	<p>若者を祝福するとともに、成人としての自覚と社会参加を促すことを目的に成人式を新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、令和4（2022）年5月3日（火・祝）に開催した。</p> <p>・参加対象者 818人 ・参加者 564人（参加率 68.9%） ・家族観覧者 137人</p>	<p>○ 参加者に陰性結果や2週間前からの検温結果の提出を求め、参加者にとって安心安全な開催となるよう、新型コロナウイルス感染症対策を講じた。また、会場での密を避けるため、参加者及び家族観覧者の動線を分ける等の対策も行った。</p> <p>● 若者のこれからの門出を祝福し、成人としての自覚と社会参加を促す機会として、今後も継続して開催する。また、他県及び他市の開催状況を注視し、開催方法の検討及び運営の工夫に取り組む必要がある。</p>	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
50 新成人フェスティバル [文化・生涯学習課]	1,239	1,163	<p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、やむを得ず令和3(2021)年度から延期していたが、令和4(2022)年9月25日(日)に開催した。感染症対策を徹底した上で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加対象者 819人 参加者 389人 (参加率 47.5%) 家族観覧者 140人 	<p>○ 参加者に2週間前からの検温結果の提出を求め、参加者にとって安心安全な開催となるよう、新型コロナウイルス感染症対策を講じた。都合が合わない等の理由で参加者人数は少なかったが、延期を繰り返しての開催であったため、開催を喜ぶ声が開かれた。</p> <p>● 若者のこれからの門出を祝福し、成人としての自覚と社会参加を促す機会として、今後も継続して開催する。また、他県及び他市の開催状況を注視し、開催方法の検討及び運営の工夫に取り組む必要がある。</p>	A
51 公民館講座運営事業 [文化・生涯学習課]	2,661	2,083	<p>社会経験豊富なシニア世代が興味を持って取り組める多種多様なメニューのシニアコース、全年齢を対象とした幅広いジャンルのエイジレスコース、小中学生の夏休みや冬休みに合わせた創作活動や実験を行う子ども向けコースを設け、講座を開催した。</p> <p>【シニアコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4(2022)年度(講座数は種類)講座 …開催24講座(延べ56回) 延べ人数 …788人 令和3(2021)年度(講座数は種類)講座 …開催24講座(延べ63回) 延べ人数 …813人 <p>【エイジレスコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4(2022)年度(講座数は種類)講座 …開催37講座(延べ65回) 延べ人数 …659人 託児サービス…2人 令和3(2021)年度(講座数は種類)講座 …開催33講座(延べ83回)、中止1講座 延べ人数 …842人 託児サービス…5人 <p>【こども向けコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4(2022)年度(講座数は種類)講座 …開催10講座(延べ15回)、中止1講座 延べ人数 …親子42組 192人 託児サービス…1人 令和3(2021)年度(講座数は種類)講座 …開催9講座(延べ15回)、中止2講座 延べ人数 …親子43組 203人 託児サービス…1人 	<p>○ 各年代のニーズに合わせ、交流を通じて生きがいや学ぶ楽しさを見出す学習機会を提供することができた。コロナ禍での開催ではあったが、開催中止は1講座のみにとどめることができた。また、主にエイジレスコースでSNSを活用し、多くの市民に情報を届けることができた。</p> <p>● より多くの方々に学習機会を提供するため、引き続き講座内容、周知方法等を工夫し、魅力ある講座にしていく必要がある。また、エイジレスコースでは比較的若い世代と男性の受講率を増加させるために、引き続きSNSを活用して効果的な情報発信を行ったり新たな講座内容の企画をしたりすることを検討していく必要がある。</p>	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
52 イベント・講座開催費 [図書館]	2,209	1,961	<p>企画展の実施 【柏崎の花 -Spring Collection 2023-】 花に関する絵画などの美術作品や美術品、生け花や雪割草など約80点を展示し、1,507人の入場があった。</p> <p>イベント・講座 【土曜日は絵本の時間。】 ・12回 参加者延べ125人（前年度10回 82人） 【映画上映会】 ・64回 入場者431人（前年度59回 559人） 【出張おはなし会】 絵本ボランティアと職員による幼稚園・保育園等での実施 ・5回 参加者延べ40人（前年度9回 91人） 【絵本の読み聞かせボランティアスキルアップ講座】 ・参加者 9人（前年度：15人）</p> <p>第二次柏崎市子ども読書活動推進計画 関係課と連携し施策に取り組み、その進捗状況について図書館協議会に報告した。 【絵本・こどもフェスタ2022】 ・虹いろおはなし会10人（昨年度 30人） ・人形劇「おいしいのぼうけん」102人（昨年度101人） 【子ども司書養成講座】 半田小11人・内郷小7人が受講（昨年度 新道小11人） 【読み聞かせボランティア等の育成・研修】 ・はじめての絵本セミナー「えほんライブ」 参加者… 24組49人（前年度 17組36人）</p> <p>【ブックスタート事業】 職員1名が4か月児集団健診に同席。希望絵本2冊は郵送又は来館時に手渡した。 対応者… 361人、722冊（前年度342人 684冊） 【ふれあいブックスタート】 ブックスタートのフォローアップとして開催 参加者… 合計12回、23組、49人（前年度5回 15組 31人） 【ブックスタートボランティア交流研修会】 感染症拡大のため中止</p>	<p>○ 企画展の実施 「柏崎の花」を冬季の閑散期に実施し、多くの来館をいただき、企画内容についても好評であった。</p> <p>○ イベント・講座 新しい生活様式に留意した感染対策を図り、前年度を上回る事業を実施し、社会教育環境の充実に寄与した。</p> <p>○ 第二次柏崎市子ども読書活動推進計画 各種事業等の実施についてコロナ禍で延期や中止となっていた活動を、感染防止対策を図りながら徐々に再開し、各関係機関・団体との連携により、子どもの読書習慣づくりと読書環境の整備を推進することができた。</p> <p>○ ブックスタート 健診会場での職員による対面説明のみ再開することができた。また、フォローアップ事業として、図書館においてふれあいブックスタートを毎月開催できた。 この事業について保護者アンケートを実施した結果、「大変良い」（95%）、「良い」（5%）であった。 また、絵本の活用についての問いには「絵本をかなり活用している」（51%）「絵本を活用している」（49%）とそれぞれ良い評価を得ることができた。</p> <p>● 読書活動を推進するための各種事業を単にコロナ禍以前に戻すことではなく、コロナ禍での経験をいかしながら、どのように事業を再展開するか検討しながら進める必要がある。</p> <p>● ふれあいブックスタート事業を更に活性化し、親子での読み聞かせの大切さや家庭での読書習慣の必要性を発信する必要がある。</p> <p>● ブックスタートボランティアの確保と養成が必要である。</p>	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
53 博物館振興事業 [博物館]	1,628	1,333	<p>【新型コロナウイルス感染症の影響と取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬季収蔵資料展における学校への解説や体験では、少人数グループ編成や使い捨て手袋の着用等、工夫して実施した。 <p>【実績等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春季企画展「柏崎の壺と壺—使われ方と歴史をたどる—」 4/23～5/22 (入場者4,396人) ・収蔵美術品ミニギャラリー 5/28～6/5 (入場者862人) ・第29回動植物スケッチ・写真展 6/12～6/26 (入場者2,331人) ・夏季収蔵資料展「アルバムの中の歴史—市民が遺したふるさとの記憶—」 7/23～8/21 (入場者4,228人) ・秋季企画展「没後150年 貞心尼と魅せられた人びと」 10/15～11/20 (入場者6,039人) ・冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具—冬のくらしを支えたモノたち—」 12/17～翌3/12 (入場者4,575人) ・各企画展等では、講演会・展示解説等の関連行事を実施 ・その他、エントランスホールにて各種のミニ展示を実施 <p>延べ開催日数 174日間 延べ入場者数 22,431人 ※令和3(2021)年度 延べ開催日数 173日間 延べ入場者数 24,125人</p>	<p>○ 企画展等では、当館収蔵資料の活用に加え、他機関等の協力を得ながら連携し、多様な学習機会の提供や理解を深める取組とすることができた。 なお、冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具」では、柏崎刈羽地域における小学校3年生の学習の場として14校の利用があり、学校教育活動に寄与することができた(令和3年度は10校)。</p> <p>● 市民の教育、学術等に寄与する教育施設とするため、博物館資料を適切に収集、保管し、市民ニーズ等に対応した展示や解説等の学習機会を提供していくことが必要である。</p>	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
54 プラネタリウム管理運営費 【博物館】	6,039	5,727	<p>【新型コロナウイルス感染症の影響と取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、各回の収容人数を制限するなどの対策を行った。 ・在宅でも楽しめるコンテンツとしてプラネタリウム動画「ウチそら」の制作を継続し、「お誕生日星座編」を公開した。 <p>再生回数 延べ170回（令和5（2023）年3月末現在） ※参考 令和3（2021）年度 9本公開 延べ1,443回（令和4（2022）年3月末現在）</p> <p>【実績等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期投影では、星空解説と「名探偵コナン 灼熱の銀河鉄道」（通年）、「見えない宇宙に挑む」（4～10月）、「スペースフロンティア」（9～3月）、「ダークユニバース」（11月）、「ISS（国際宇宙ステーション）からの眺め」（12～3月）、「ヤドカリくん、ほしをみに」（ゴールデンウィーク・夏休み・春休み）を投影した。 ・キッズプラネタリウム（9回241人）、夏季イベント投影「行こう！人気の惑星ツアー」（6回211人）、水球コラボイベント「マッジョプラネタリウム」（4回98人）、「熟睡プラネタリウム」（6回157人）、「クリスマスイベント」（6回69人）、天文講演会「アルマ天文台×プラネタリウム」（1回40人）、バレンタイン特別解説（4回123人）を実施した。 ・小中学校の学習投影にも対応した。 ・教育センター・柏崎天文同好会と連携し、星空観察会を3回（合計20組53人）実施した。 <p>定期投影 161回 特別投影・イベント投影 84回（団体利用含む。） 学習投影 56回 計301回</p> <p>入場者 6,403人 ※令和3（2021）年度 278回 6,907人</p>	<p>○ 定期投影等では子どもから大人まで楽しめる番組を選定し、天文への興味や理解を深めてもらうことができた。</p> <p>また、「熟睡プラネタリウム」や「クリスマスイベント」といったオリジナル企画を合計7件実施することができた。</p> <p>さらに、学習投影では、小学校（4年生18校25回投影、6年生14校21回投影）、中学校（3年生6校10回投影）が理科の天文学習で利用し、学校教育活動に寄与することができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、全体の投影回数は前年度を上回った。入場者が安心して利用できる対策や動画配信も含めた各種の取組により、柏崎の星空を解説し、星空を楽しめる機会を提供することができた。</p> <p>● 学習投影や柏崎の星空解説等を通じた天文学習を継続するとともに、新番組を組み込みながら、今後もリニューアルで導入した新型機器を有効に活用する企画を行う必要がある。</p>	A

(2) 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する

ア 地域づくりへの学習成果の活用

イ 様々な主体との連携による生涯学習の充実

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
55 市民大学運営事業 【文化・生涯学習課】	1,067	716	<p>市民が学ぶ喜び・楽しみから心の豊かさや生きがいを見いだすことを目的に、市内2大学と連携しながら多岐にわたる分野の講座を開催した。</p> <p>令和4（2022）年度（講座数は種類） 講座…開催13講座（延べ32回） 延べ人数…554人</p> <p>令和3（2021）年度（講座数は種類） 講座…開催12講座（延べ32回） 延べ人数…642人</p>	<p>○ 市民公募の企画運営委員と共に、市民のニーズに合わせた後期講座を企画検討し、開催することができた。コロナ禍での開催ではあったが、対策を講じつつフィールドワークも実施した。また、対面とオンラインのハイブリッド式を採用した講座を1講座実施した。</p> <p>● より多くの方々に学習機会を提供するため、主に若い世代をターゲットにした魅力ある講座を引き続き検討していく必要がある。あわせて、周知方法等を工夫していく必要がある。</p>	A

3 スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・後期基本計画における施策の方針】

市民がそれぞれのライフステージに応じたスポーツに接し、地域づくり・健康づくり・生きがいづくりにつながるよう、福祉、介護、保育、地域、教育などの分野を超えた連携を図ります。

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に取り組んだホストタウン事業や障がい者スポーツ啓発事業を更に深めていきます。

各種競技団体との連携を強化し、優れた競技者の養成と指導者の確保により、全国や世界で通用する競技者を育てます。一方で、学校の部活動の再編に的確に対応し、競技の普及、競技力の向上や強化に向けて取り組みます。

未就学児童と小学生及び保護者を対象に、スポーツへの関心の向上と競技者育成のきっかけづくりを推進します。

体育施設は、少子高齢化による競技者人口の推移を踏まえ、時代の要請に対応した施設の統合や複合化を検討します。

◆ 主な事業

スポーツ振興課

○ スポーツ事業支援経費

一般財団法人柏崎市スポーツ協会、各地区体育協会等に活動費の補助を行い、市民スポーツ活動の活性化を図った。また、各関係団体に大会等の企画・運営を委託することで幅広く市民スポーツ・行事が実施でき、生涯スポーツの普及・振興が図られた。特に一般財団法人柏崎市スポーツ協会と連携を強め、選手強化、公認スポーツ指導者制度の制定、学校部活動の地域化（試行）を推進した。新たな取組として、フィジカルリテラシー（※）の習得を目的として、プレゴールデンエイジ（※）（3～8歳）及びゴールデンエイジ（※）（9～12歳）を対象とした「親子で運動あそび教室体験会」や「子どものスポーツ能力測定会」を実施した。また、働く世代への健康啓発事業「かしわざき健康サポートカンパニー」を立ち上げ、関係課・関係団体との協働により生涯スポーツの推進を図る基盤づくりを始めた。

○ 佐藤池野球場整備事業

観客スタンドの屋根の老朽化により、強風による被害が懸念されていたが、改修工事を実施したことで、施設利用者や観戦者の安全安心が確保できた。あわせて、外壁調査を行ったことにより、次年度以降の修繕を計画的に行うことができるようになり、適切な施設管理につながった。

○ 水球のまち推進事業

柏崎水球事業実行委員会に対して負担金を支出し、一般社団法人ウォーターポロクラブ柏崎と連携して各種水球事業を実施した。主なものとして、コロナ禍でのシンガポール男女代表チームの合宿及びアジアリーグのプレ大会を開催した。また、ホストタウン事業として駐日セルビア共和国特命全権大使代理及び日本セルビア協会役員を海の大花火大会に招待するとともに、高校水球男子チームとプールサイドで交流した。次年度の世界水泳選手権2023福岡大会の事前キャンプに向け、当市をPRすることができた。

(1) スポーツによる地域づくりや生きがいを進める

ア ライフステージに応じたスポーツの推進

イ スポーツによる交流人口の拡大

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
56 市民スポーツ大会経費 [スポーツ振興課]	2,808	2,665	新型コロナウイルス感染症対策を取りながら各種行事を実施した。スポーツ推進委員会を中心に地区体育協会やこども自然王国（樹生態計画研究所）と連携しスポーツを楽しむ場、親しむ場を提供できた。 実施事業 ・スポーツGP、グラウンドゴルフ大会、参加者40人 ・スポーツGP、ペタンク大会、参加者51人 ・スポーツGP、ポッチャ大会、参加者63人（令和3（2021）年度、参加者72人） ・スポーツGP、ふらば～るバレーボール大会、参加者63人 ・スポーツGP、カローリング大会、参加者78人（令和3（2021）年度、参加者39人） ・市民スキー・スノーボードスクール、参加者54人（令和3（2021）年度、参加者75人） ・ウォーキングイベント、参加地区体協9地区（令和3（2021）年度、参加地区体協10地区）	○ 感染症対策を取りながらスポーツ振興を進めることができた。また、令和3（2021）年度に初めて開催した新潟県の健康アプリを活用したウォーキングイベントも継続して開催することができた。 ● スポーツイベントの開催において、熱中症・感染症対策も含めて適正に企画・運営をしていかなければならない。スポーツ推進委員、地区体育協会などと連携し、多くの市民が参加し楽しむことのできるイベントや、運動習慣につながる企画等を検討して実施する必要がある。	A
57 学校開放経費 [スポーツ振興課]	258	200	新型コロナウイルス感染症対策を取りながら市内31校の学校体育施設を開放した。 利用登録団体数196団体、延べ利用者数147,013人（令和3（2021）年度、利用登録団体数188団体、延べ利用者数121,928人）	○ 感染症対策を取りながら学校体育施設を有効活用することで、運動する機会と場所を提供し、地域のスポーツ活動に寄与することができた。 ● 市民が運動に親しむ機会を確保するため、学校体育施設の積極的な活用を進めていく必要がある。また、他の市内施設の状況も確認しながら、施設予約システムの検討が必要である。	A
58 スポーツ推進委員費 [スポーツ振興課]	3,517	3,444	新型コロナウイルス感染症対策を取りながら67人のスポーツ推進委員が、地区体育協会と連携し、ニュースポーツ指導等の派遣事業を行った。また、障がい者、外国人とのスポーツ交流会も継続して行った。 実施事業 ・ニュースポーツ指導等の派遣事業、10回、参加者241人（令和3（2021）年度、9回、参加者225人） ・ニュースポーツ&パラスポーツ体験会、参加者87人（令和3（2021）年度、参加者208人） ・外国人とのスポーツ交流会、参加者28人（令和3（2021）年度、参加者27人）	○ 感染症対策を取りながら職場や地域の方々、障がい者や外国人も含めて、スポーツを楽しんでもらい、交流する機会を提供することができた。 ● 職場や地域でのスポーツ振興を図るとともに、スポーツの楽しさを伝えていかなければならないが、少子高齢化や過疎化の問題がある中でスポーツ推進委員の成り手が不足していることが課題である。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
59 市町村生涯スポーツ振興事業 [スポーツ振興課]	1,103	459	学校運動部活動指導者（外部指導者）派遣事業で、その指導報酬などを負担し、4校で5人の指導員を派遣した（令和3（2021）年度、4校6人派遣）。	○ 中学校の運動部活動に対して、競技の説明・練習方法等を的確かつ丁寧に指導できる外部指導者を派遣し、運動部活動の活動支援を行った。また、専門的な指導ができない教職員の負担軽減につながった。 ● 学校部活動の地域化（令和8（2026）年度から休日の地域移行実現）に向けて、（一財）柏崎市スポーツ協会と連携し、人材を確保するとともに、指導者の資質を向上させなければならない。	A
60 スポーツ事業支援経費 [スポーツ振興課]	25,385	25,067	（一財）柏崎市スポーツ協会、各地区体育協会、マラソン大会等の活動を支援するため、運営費の補助を行った。また、（一財）柏崎市スポーツ協会等に市民スポーツ・行事に関する事業を委託したことにより、選手強化、公認スポーツ指導者制度の確立、市民スポーツ・行事の円滑な運営などが図られた。新規の取組としては、フィジカルリテラシーの習得を目的として、プレゴールデンエイジ（3～8歳）及びゴールデンエイジ（9～12歳）の保護者に対して啓発のチラシを配布するとともに、「親子で運動あそび教室体験会」や「子どものスポーツ能力測定会」を開催した。また、働く世代への健康啓発事業「かしわざき健康サポートカンパニー」を立ち上げ、関係課・関係団体との協働により生涯スポーツの推進を図る基盤づくりを始めた。 ・親子で運動あそび教室体験会 1回目、10/15、参加者9組 ・2回目、11/12、参加者6組 ・子どものスポーツ能力測定会、10/2、参加者165人 ・かしわざき健康サポートカンパニー 登録事業所数、20事業所	○ 新規の取組を行いながら、市民スポーツ活動の活性化や生涯スポーツの普及・振興を図った。市民スポーツ活動の活性化については、特に（一財）柏崎市スポーツ協会と連携を強め、選手強化、公認スポーツ指導者制度の制定、学校部活動の地域化（試行）を推進した。 ● 少子高齢化が加速する中、時代や市民ニーズに合ったスポーツの推進、地域のスポーツ振興をけん引するために、関係団体、関係機関との連携が必要である。	A

(2) 全国や世界に通用する競技者を育てる

ア 競技団体との連携の強化と指導者の養成

イ 競技力の向上に向けた取組の推進

ウ 施設の整備と改修

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
選手強化事業 [スポーツ振興課]	5,000	5,000	県の強化指定を受けている3競技（水球、陸上、ハンドボール）団体に対し、地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業補助金を交付し、小・中・高生の選手強化を図った。 ・水球 3,000,000円 ・ハンドボール 1,000,000円 ・陸上 1,000,000円	○ 新潟県の強化指定を受けている3競技（水球・ハンドボール・陸上）への支援を継続し、選手強化に努めた。 ・水球は、全日本ジュニア（U17）水球競技選手権で、ブルボンウォーターポロクラブ柏崎（男子）ベスト8、ブルボンウォーターポロクラブ柏崎（女子）3位となった。 ・ハンドボールは、全国高等学校総合体育大会に柏崎工業高校の男子と柏崎高校の女子が出場した。 ・陸上は、全国高等学校総合体育大会で新潟産業大学附属高校の男子が200mで第3位となった。 ● 県の強化指定を受けている3競技の活動支援、選手強化を継続し、ジュニア世代の競技力の維持・向上を図る必要がある。	A
国際大会等出場激励事業 [スポーツ振興課]	200	140	スポーツで国際大会に出場する選手に激励金を贈り、スポーツ振興を図った。 ・水球4選手（令和3（2021）年度、5選手（水球4、セーリング1））	○ 国際大会に出場した水球の4選手に激励金を贈った。 ● 競技スポーツの振興とスポーツ活動を激励するため、引き続き事業の継続が必要である。	A
スポーツ合宿誘致事業 [スポーツ振興課]	175	175	柏崎市スポーツ合宿誘致推進連絡協議会に負担金を支出し、誘致活動を行った。新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、感染症対策を取りながら令和3（2021）年度よりも多くの合宿が行われた。また、原点に戻り、過去に合宿に来た団体に改めてメールやパンフレットを配布した。 ・スポーツ合宿実績24団体、実人数681人、延べ人数4907人（令和3（2021）年度、3団体、実人数67人、延べ人数178人）	○ コロナ禍で従来のような旅行代理店への訪問活動は実施できなかったが、合宿のホームページのリニューアルや以前来ていただいた団体へのダイレクトメールなどで44団体6旅行代理店へ周知をした。また、全日本ジュニア（U17）水球競技選手権大会の参加28チームに合宿のパンフレットを配布した。 ● スポーツ施設の稼働率が悪い平日の時間帯における利活用を促進するため、スポーツ合宿のターゲットの拡大（競技スポーツ以外の障がい者スポーツ・生涯スポーツ）やスポーツ以外の利用を検討する必要がある。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
64	体育施設管理運営経費 [スポーツ振興課]	390,935	390,771	体育施設の指定管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設の運営に関する業務、維持管理に関する業務、利用料金の徴収に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。また、スポーツハウスや県立柏崎アクアパークの修繕を行うなど、施設の維持管理に努めた。 ・年間利用者数15施設分471,072人（令和3（2021）年度、400,249人）	○ 利用者が安全安心に施設を利用できるように新型コロナウイルス感染症対策を取りながら運営管理をした。スポーツハウスではPCBの入替え、県立柏崎アクアパークでは男子浴室天井の一部を修繕し、施設を適切に管理できた。 ● コロナ禍で落ち込んだ施設利用者数の回復や時代のニーズに合致した運営の工夫が必要である。また、古い公共施設の活用方法や施設の統廃合なども検討していかなければならない。	A
65	体育施設備品購入経費 [スポーツ振興課]	2,500	2,422	老朽化のため、佐藤池野球場のバッティングケージ、テニスコートのテニス支柱、スキー場のレンタルスキー板を入れ替えた。総合体育館トレーニング室のダンベルは不足により追加購入した。	○ 体育施設で備品を購入したことにより、各施設の利便性が向上した。 ● 体育施設を安全に使用できるように、老朽化した備品を計画的に更新する必要がある。	A
66	佐藤池野球場整備事業 [スポーツ振興課]	68,000	64,522	観客スタンド屋根の改修工事を実施した。あわせて、外壁調査を行い、適切な施設管理が行えるようになった。	○ 老朽化した観客スタンド屋根を改修し、利用者の安全確保ができた。同時に外壁調査を行ったことにより、次年度以降の修繕を計画的に行うことができるようになった。 ● 引き続き、安全で快適な施設を利用者に提供するため、適切な維持管理を行う必要がある。	A
67	陸上競技場整備事業 [スポーツ振興課]	3,800	3,520	令和3（2021）年度に観客スタンドの耐震診断を行い、耐震改修工事が必要と診断されたため、耐震改修設計を実施した。	○ 利用者の安全性を確保するため、次年度に観客スタンドの耐震改修工事を実施できるようにした。 ● 引き続き、安全で快適な施設を利用者に提供するため、適切な維持管理を行う必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
68 武道館整備事業 [スポーツ振興課]	1,529	1,485	2階の男女1か所ずつのトイレを洋式トイレに改修した。	○ トイレ設備の更新により、利用者の利便性が向上した。令和5(2023)年度に1階及び2階の改修を行い、武道館の洋式トイレ改修は終了する予定である。 ● 安全で快適な施設を利用者に提供するため、適宜、更新を行う必要がある。	A
69 体育施設備品購入整備事業 [スポーツ振興課]	3,876	3,713	佐藤池野球場に配備してある老朽化したトラクター及びグラウンド整備用の附属部品を入れ替えた。	○ 佐藤池野球場及び第二野球場のグラウンド整備が容易になり、適切に維持管理ができるようになった。 ● 体育施設を安全に使用できるように、老朽化した備品を計画的に更新する必要がある。	A
70 水球のまち柏崎推進事業 [水球のまち推進室]	8,523	8,464	柏崎水球事業実行委員会に負担金を支出し、各種大会の開催・合宿誘致事業、ホストタウン事業、水球を支え育むまちづくり事業を行い、水球によるまちづくりを推進した。また、(一社)ウォータポロクラブ柏崎に対して社会人水球クラブ強化補助金を交付し、活動を支援することで選手強化につなげた。 ・第5回えちゴソカップ、参加チーム 7チーム(令和3(2021)年度コロナ禍のため中止) ・第6回新潟レディースカップ、参加チーム 11チーム(令和3(2021)年度コロナ禍のため中止) ・シンガポール水球代表チーム合宿 〈女子〉9/15~9/21 19人 〈男子〉9/19~9/24 20人 ・韓国水球クラブチーム合宿 12人 ・早稲田大学水球部合宿 15人 ・柏崎海の大花火大会への駐日セルビア共和国特命全権大使招待 ・海で水球in柏崎の開催 〈柏崎港〉7/9 観戦者 400人 〈笠島漁港〉7/16 参加チーム 7チーム ・水球日本代表として国際公式大会に出場した選手4人(令和3(2021)年4人)	○ シンガポール男女代表チームが合宿を行った際に、アジアリーグのプレ大会を開催し、140人が観戦した。アジア圏での合宿地としての知名度の向上につなげることができた。 水球を支え育むまちづくり事業として行った、海で水球in柏崎では、笠島漁港において、初めて参加して楽しむ水球(観光商品)として開催し、交流人口の拡大につなげることができた。 ホストタウン事業として、海の大花火大会に駐日セルビア共和国特命全権大使代理及び日本セルビア協会役員を招待した。 ● 今後は、ホストタウン事業で得た世界水球界からの信頼をアジア圏の水球の聖地化につなげるとともに水球を通じた国際交流を一般市民(特に児童生徒)に拡大させ市民の国際感覚や語学力の向上につなげることが重要である。 また、水球競技力の向上を図るため強化費の継続が必要である。	A

4 歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる

【第五次総合計画・後期基本計画における施策の方針】

GIGAスクール構想等を踏まえて、WEBミュージアムの充実、活用を進めます。指定文化財等基本調査を実施し、その成果をWEBミュージアムにより発信します。

本市の産業文化を学べる機会を提供し、保存と活用を進めます。

「柏崎市景観計画」に基づき、景観の向上に努めます。

良質な芸術作品の鑑賞機会や活動の場を引き続き市民に提供するとともに、新たなイベント等の開催を企画するなどして、市民の文化活動に対する興味や関心を深め、主体的に文化活動を行う人材の育成につながるよう支援します。

教育機関や芸術団体との連携により、広域的に文化交流を推進します。また、市民の文化交流や文化活動を支援し、周辺エリアのにぎわい創出につなげるよう取り組みます。

◆ 主な事業

文化・生涯学習課

○ 文化会館管理運営事業

文化会館アルフォーレの管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。年間利用者数111,271人（令和3（2021）年度84,120人）

○ 市美術展覧会事業

市民の日頃の創作活動の成果を発表する機会として、市美術展覧会を10月1日（土）から10月10日（月・祝）までソフィアセンターで開催した。出品者数237人（令和3（2021）年度218人）、作品展示数267点（令和3（2021）年度275点）、入場者数延べ3,116人（令和3（2021）年度2,700人）

○ 文化振興支援事業

文化会館アルフォーレとの共催でアルフォーレ劇場広場を会場とした野外おんがく堂2022を開催した。入場者2,268人、出演14団体。また、文化会館アルフォーレ、柏崎音楽協会、柏崎観光協会、柏崎地域国際化協会及び市の5団体で「古典を活かした柏崎地域活性化事業実行委員会」を組織し、「柏崎古典フェスティバル」4事業を実施した。綾子舞アルフォーレ公演入場者数550人、池辺晋一郎 音楽の不思議 狂言を探求してみよう 入場者566人、アルフォーレ特選寄席 立川志の輔 独演会 入場者604人、狂言ワークショップ～ようこそ狂言の世界へ～入場者数27人

博物館

○ 綾子舞後継者育成事業

人口減少により伝統芸能の後継者不足が全国的な問題となっている中、伝承者養成講座と伝承学習の2本柱で後継者育成を継続している。その中で、伝承学習においては、新道小学校及び南中学校の児童生徒を対象とした課外クラブ等とすることで参加者の確保に努め、令和4（2022）年度は、63人の参加を得ることができた。

○ WEBミュージアム推進事業

地域の文化、風土を学習できるよう、子ども向けWEBミュージアムを運用した。また、大人向けWEBミュージアムでは、新たに5件の指定文化財をデジタル高精細画像で撮影して公開した。WEBミュージアムは社会科副読本に対応するなど、教育現場での利用促進が図られた。また、資料等のデジタル化を推進することができた。

○ 文化財保護管理費

文化財の保存と活用を図る取組のひとつとして、指定文化財の歴史的・文化的価値を再確認するため、指定文化財等基本調査事業を継続し、合計18件の調査を行った。文化財の現状を記録するとともに、専門家による所有者への助言等を行い、保存意識を高めてもらうことができた。そのほか、史跡等に対する指定文化財周辺整備の実施、国指定文化財（建造物）の防災設備保守点検等に対する補助金交付等を行った。

(1) 歴史・文化を保全・活用し、継承する

- ア 伝統芸能の継承
 イ 歴史・文化資産の保存と活用
 ウ 産業文化や生活文化の保存と活用
 エ 景観まちづくりの推進

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
71 綾子舞後継者育成事業 [博物館]	1,649	1,324	「綾子舞」の後継者を育成するため、伝承学習及び伝承者養成講座を実施した。 「綾子舞伝承学習」は、伝承地を校区とする南中学校と新道小学校を対象に実施した。 期間 5/10～11/4、延べ9回開催 参加児童生徒数 63人（令和3（2021）年度60人） 「綾子舞伝承者養成講座」は、2つの座元（下野、高原田）において実施した。 期間 5/17～10/27、延べ35回開催（6/7中止） 延べ参加者数 778人（令和3（2021）年度824人） 中止は、座元の都合によるものである。	○ 綾子舞保存振興会や学校などの関係団体と連携を図り、感染症対策を行いながら、郷土の伝統芸能を継承するための後継者を育成することができた。 ● 人口減少などの影響により、新道小学校及び南中学校の児童生徒を対象にした綾子舞伝承学習への参加者や指導者の継続的な確保が課題である。 後継者育成を途絶えさせることなく確実に継続していくことが必要である。	A
72 文化財保護管理費 [博物館]	3,179	3,040	文化財の保存と活用を図る取組のひとつとして、指定文化財の歴史的・文化的価値を再確認するため、指定文化財等基本調査事業を行った。そのほか、史跡等に対する指定文化財周辺整備の実施、国指定文化財（建造物）の防災設備保守点検等に対する補助金交付等を行った。 指定文化財等基本調査事業実施件数 絵画5件、彫刻4件、工芸品1件、民俗資料1件、史跡1件、天然記念物6件 合計18件	○ 指定文化財等基本調査事業では、文化財の現状を記録するとともに、専門家による所有者への助言等を行い、保存意識を高めてもらうことができた。 ● 指定文化財の調査は長期に渡ることから、計画的な事業実施が必要となる。少子高齢化や過疎化等による文化資産継承の担い手不足に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式の変容等が相まって、地域の生活習慣等が後世に引き継がれにくくなっている。また、多様な分野があり、価値付けが定まっていない部分が多い文化財等の保護に関しては、全国的な調査や検討が求められる。	A
73 柏崎市内遺跡発掘調査事業 [博物館]	11,312	9,573	県営ほ場整備事業、市道改良工事、民間開発等に伴い、事前の試掘・確認調査などを行った（試掘・確認調査6件、工事立会10件）。また、令和3（2021）年度に実施した試掘・確認調査などの報告書1冊（71ページ、300冊）を刊行した（報告書は令和5（2023）年度に関係機関約290か所に配布予定）。	○ 試掘・確認調査の実施及び報告書を刊行して、埋蔵文化財保護をすることができた。 ● 県営ほ場整備事業対応のための調査経費が増加している。 年度当初に予定した調査のほかに緊急な対応を求められる場合がある。 開発事業の計画変更によって、調査の内容も異なってくるため、本事業の計画の見直しが必要である。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
74	都市整備関連遺跡調査事業 [博物館]	2,579	2,013	平成4(1992)年に本発掘調査を行った馬場・天神腰遺跡の発掘調査報告書を作成し、刊行した。	○ 馬場・天神腰遺跡の発掘調査報告書を刊行し、調査成果を公開することができた。 ● 今後も市道改良工事に伴う発掘調査報告書を計画的に刊行し、調査成果を市民ニーズに応じて活用してもらうことにより、埋蔵文化財の理解を深めていくことが必要である。	A
75	県道関連遺跡調査事業 [博物館]	53,135	51,708	一般県道黒部柏崎線道路改築工事に伴い、大字山本・長崎地内の西岩野遺跡において約440㎡を対象に記録保存のための本発掘調査を実施した。	○ 年次計画範囲の本発掘調査を確実に実施し、県道事業に支障を及ぼすことなく埋蔵文化財保護をすることができた。 ● 調査成果をまとめて、発掘調査報告書を作成するとともに、調査成果を市民へ公開する必要がある。	A
76	WEBミュージアム推進事業 [博物館]	5,225	5,032	地域の文化、風土を学習できるよう、子ども向けWEBミュージアムを運用した。また、大人向けWEBミュージアムでは、新たにデジタル高精細画像で撮影した指定文化財等の資料を公開した。 ・デジタル高精細画像撮影件数 5件(うち指定文化財5件) ・WEBミュージアムアクセス件数 167,990件 <内訳> わたしたちの柏崎・特集ページ 59,136件 柏崎の偉人と文化財 24,759件 高精細デジタルアーカイブ 84,095件	○ 社会科副読本に対応するなど、教育現場での利用促進が図られた。また、資料等のデジタル化を推進することができた。 ● 撮影費が高額であることから、単年度の新規更新件数は限定的であり、計画的に継続することが必要である。また、GIGAスクール事業により児童生徒のインターネット利用環境が充実したことから、学校でのWEBミュージアム活用促進が求められている。	A

(2) 市民の主体的な文化活動を支援する

ア 市民の文化活動への支援

イ 多様な文化交流の推進

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
77	文化会館管理運営費 [文化・生涯学習課]	189,329	188,835	文化会館アルフォーレの管理に関する基本協定に基づく業務(利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか)を指定管理者が適切に行った。 ・年間利用者数 111,271人 (令和3(2021)年度84,120人) ・アルフォーレ自主事業 来場者満足度97%	○ 新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で、10件の鑑賞事業、2件の普及育成事業、4件の参加型事業、2件の賑い創出事業を実施し、「ウィズコロナ」を視野に入れた管理運営ができた。 ● 民間文化団体の減少が続くことから、市民の文化活動が後押しする企画の立案や施設利用を促進する環境整備を行う必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
78 産業文化会館管理運営費 [文化・生涯学習課]	76,362	76,361	産業文化会館の管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。 ・年間利用者数 49,686人 (令和3(2021)年度36,169人)	○ 新型コロナウイルス感染症対策に配慮しつつ各種カルチャー教室、文化講演会「桐谷広人講演会」を始め、5つの文化イベントを実施したことで昨年を上回る利用者数となった。また新企画「さんぶんフリーマーケット・OH!KASHI」を実施して、普段施設を利用しない若年層への周知に力を入れた。 ● 竣工後40年以上を経過しており、建物本体及び音響設備の老朽化が顕著であることから、施設の利用ニーズを踏まえた上で、必要な修繕を行う必要がある。	A
79 市美術展覧会費 [文化・生涯学習課]	2,074	1,827	・市民の日頃の創作活動の成果を発表する機会として、市美術展覧会を10月1日(土)から10月10日(月・祝)までソフィアセンターで開催した。 出品者数 237人 (令和3(2021)年度218人) 作品展示数 267点 (令和3(2021)年度275点) 入場者数 延べ3,116人 (令和3(2021)年度2,700人) ・10月11日(水)から、令和2(2020)年度～令和4(2022)年度の入賞作品をアーカイブ展示している。	○ 芸術活動を行う市民の高齢化が進んでいることで、今後市展への出品数の先細りが見込まれることから、若年層の芸術への関心を高めるため、中学生の出品を認めることとした結果、7名から8作品の出品があった。また、新型コロナに配慮しつつ、来場をピーアールした結果、前年度を上回る入場者数となった。 ● 運営委員の世代交代を円滑に進めることで、芸術分野における高齢化に対応する必要がある。また、効率の良い市展運営を行うため、会期や会場設備等の見直しを行う必要がある。	A
80 文化振興支援事業 [文化・生涯学習課]	3,218	1,652	文化会館アルフォーレとの共催でアルフォーレ劇場広場を会場とした野外おんがく堂2022を開催した。 ・入場者2,268人 出演14団体 文化会館アルフォーレ、柏崎音楽協会、柏崎観光協会、柏崎地域国際化協会及び市の5団体で「古典を活かした柏崎地域活性化事業実行委員会」を組織し、「柏崎古典フェスティバル」4事業を実施した。 ・綾子舞アルフォーレ公演 入場者数550人 ・池辺晋一郎 音楽の不思議 狂言を探求してみよう 入場者566人 ・アルフォーレ特選寄席 立川志の輔 独演会 入場者604人 ・狂言ワークショップ～ようこそ狂言の世界へ～ 入場者数27人	○ 「野外おんがく堂」開催により、アマチュア演奏家の発表の場の提供を行い、また地域の賑わいの創出につなげることができた。「柏崎古典フェスティバル」を開催し、民間が持つ創造力と知見を活用しながら、良質な古典の鑑賞機会や文化芸術に親しむ機会を提供することができた。 ● 市民一人一人が文化芸術に親しむことのできる魅力あるまちづくりを目指す必要がある。今後も文化交流の発展と市民の関心や理解が深まる文化芸術活動に対する支援に取り組みたい。	A

5 その他教育関係事務事業

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
81 人権・同和教育事業 [文化・生涯学習課]	10	2	市民プラザにおいて、12月の人権週間に合わせ、パネル展を実施し、人権に関する啓発活動を行った。 (人権週間の周知、同和問題についてなどのパネル展示をするとともに、全国中学生人権作文コンテスト新潟大会で入賞した市内の中学生の作品3点を掲示した。) また、県、出雲崎町、刈羽村と共催し、社会同和教育市町村巡回研修を行った。学校教育課、人権啓発・男女共同参画室と連携し、関係各課に広く呼び掛けるとともにシャトルバスを用意し、会場(出雲崎町)までの送迎を行い、市内の一般住民を含む67人の参加があった。あわせて、部落解放新潟県研究会や人権同和指導者研修などに参加し、人権に関する知識を高めることができた。	○ パネル展では、全国中学生人権作文コンテストの入賞者の作品を展示し、人権について関心が高まるように努めた。 また、市町村巡回研修では、関係各課に広く呼び掛け、一般住民の参加促進に努めた。 ● 学校教育課、人権啓発・男女共同参画室と連携し、同和問題を始め、インターネットによる人権侵害など人権問題についての啓発活動を実施していく必要がある。	A

○廃止した事業

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
修学旅行のキャンセル料等支援事業 [学校教育課]			令和3(2021)年度で事業が完了したため		

— — — 用 語 解 説 — — —

ICT	インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジーの略。情報通信技術。従来、用いられてきた「IT」とほぼ同様の意味で用いられるもので、国際的にはICTの方が定着している。
デジタル教科書	デジタル機器や情報端末向けの教材のうち、既存の教科書の内容を閲覧するためのソフトウェア。閲覧のほか、編集、移動、追加、削除などの基本機能を備えている。
GIGAスクール構想	1人1台端末と通信ネットワークを一体的に整備することで、これまでの教育とICTのベストミックスを図り、子どもたちの学習活動(一斉学習、個別学習、協働学習)を一層充実させるための国の構想。GIGAとは、Global and Innovation Gateway for Allの略
通次繰越	継続費の場合に、その年度ごとの予算について、その年度内に支出を終了することができない経費を翌年度以降に繰り越して使用することができるものをいう。
繰越明許	その年度内に支出を終了することができない経費について、特別に、翌年度1年間に限り繰り越して使用することができるものをいう。
フィジカルリテラシー	生涯にわたるスポーツ参画を通じ、心身ともに健康で幸福な社会生活を営む上で持つべき基礎的素養をいう。
プレゴールデンエイジ	神経系の発達が著しい時期(3歳～8歳)をいい、脳を始めとした神経回路の発達が急速に進む大切な時期とされる。運動能力の基礎は、この年代に形成されると言われている。
ゴールデンエイジ	神経系の発達がほぼ完成し、動きの巧みさを身に付けるのに最も適している時期(9歳～12歳)をいう。

[参考]

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号）

（事務の委任等）

第二十五条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。

- 一 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
- 二 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
- 三 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
- 四 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- 五 次条の規定による点検及び評価に関すること。
- 六 第二十七条及び第二十九条に規定する意見の申出に関すること。

3 教育長は、教育委員会規則で定めるところにより、第一項の規定により委任された事務又は臨時に代理した事務の管理及び執行の状況を教育委員会に報告しなければならない。

4 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。